北支

昭和十四年六月二十日第三種郵便物認可　昭和十七年四月十五日印刷納本
昭和十七年五月一日發行（毎月一回一日發行）第四十六號

現地編輯

5

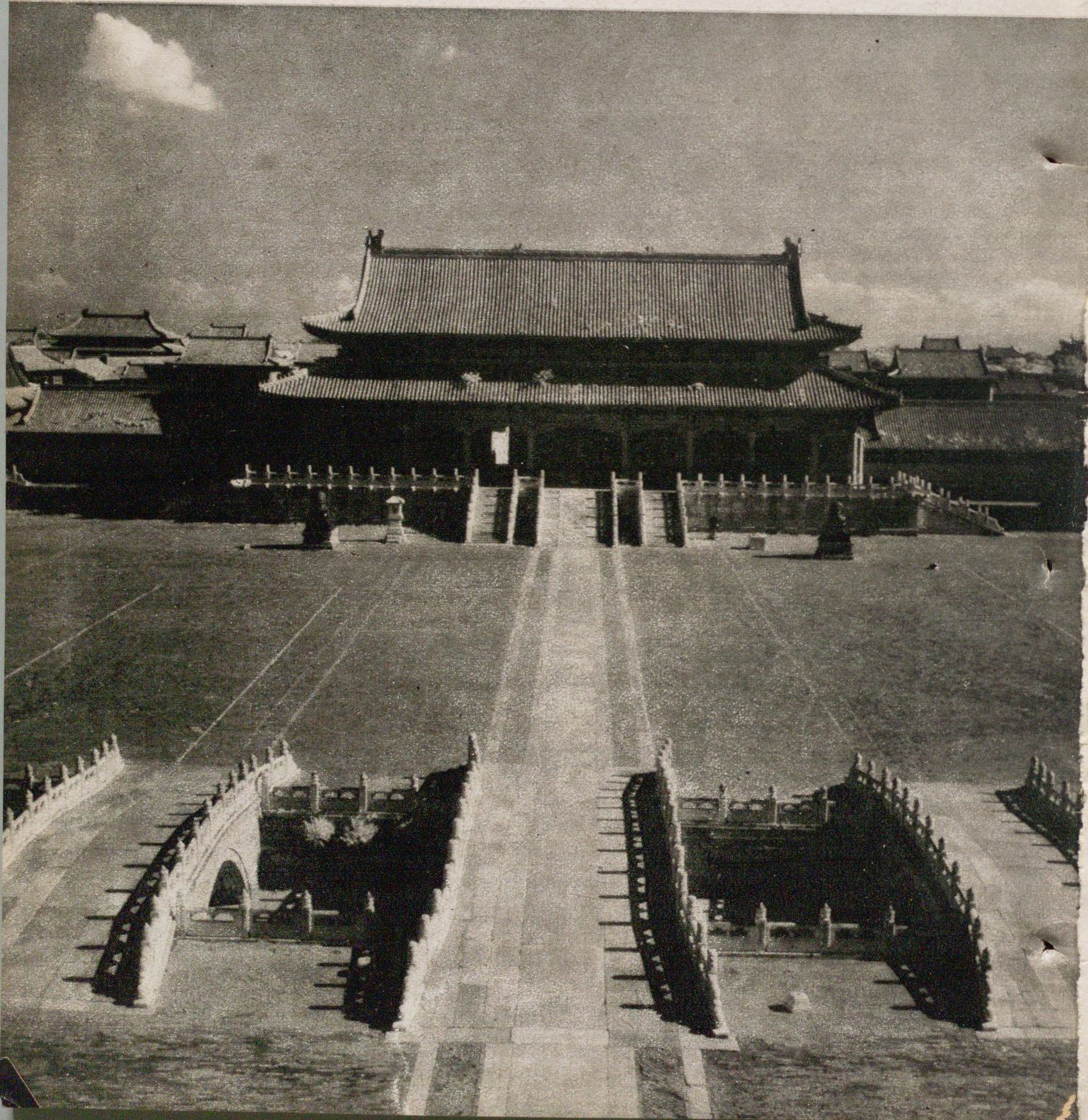
美しき北京

紫禁城

北京は一千年の間、各朝廷が一國の首都としてそれぞれ帝室の面目にかけて經營してきたのである。近くは康熙・雍正・乾隆三代に亙る燦然たる東洋文化の黃金時代も實に此の地を中心として現出されたのである

紫禁城は五百年前のものであるが、明清の兩朝によつて幾度か補修されて今日に及んでゐる。黃色の屋根瓦をいただいた諸宮殿は今も尙四百餘州に號令した在りし日の威望を見せ、正に北支那を表徴する建築美の一つである。紫禁城はほぼ南北の二部に分たれ、南半は天子の朝儀に、北半は帝后の起居された內廷の諸宮になつてゐて、外朝の正門である午門は世界最大の門として知られてゐる

現在それぞれの宮殿は歷史博物館、故宮博物院、古物陳列所となつて一般の觀覽に供せられてゐる

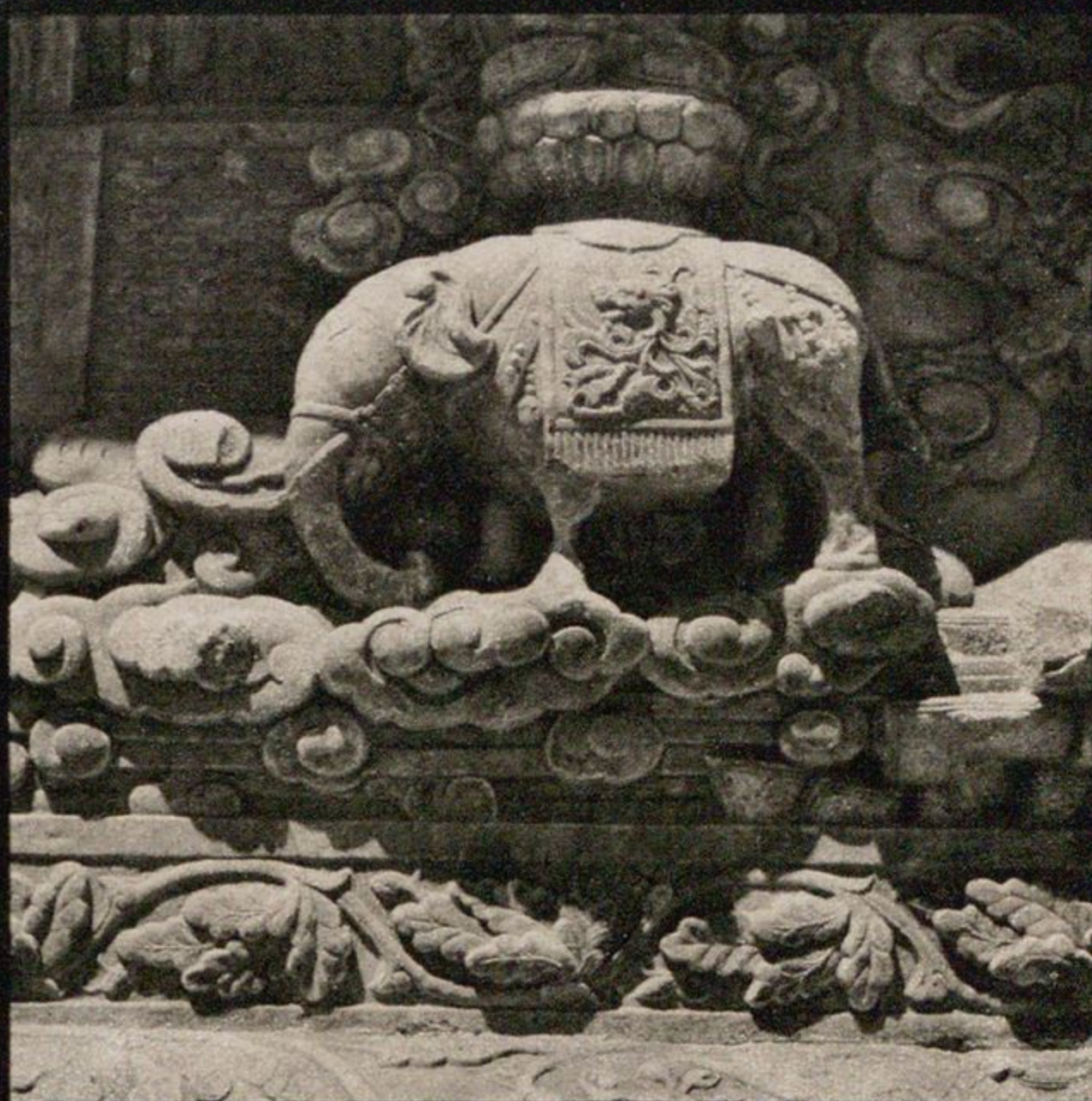
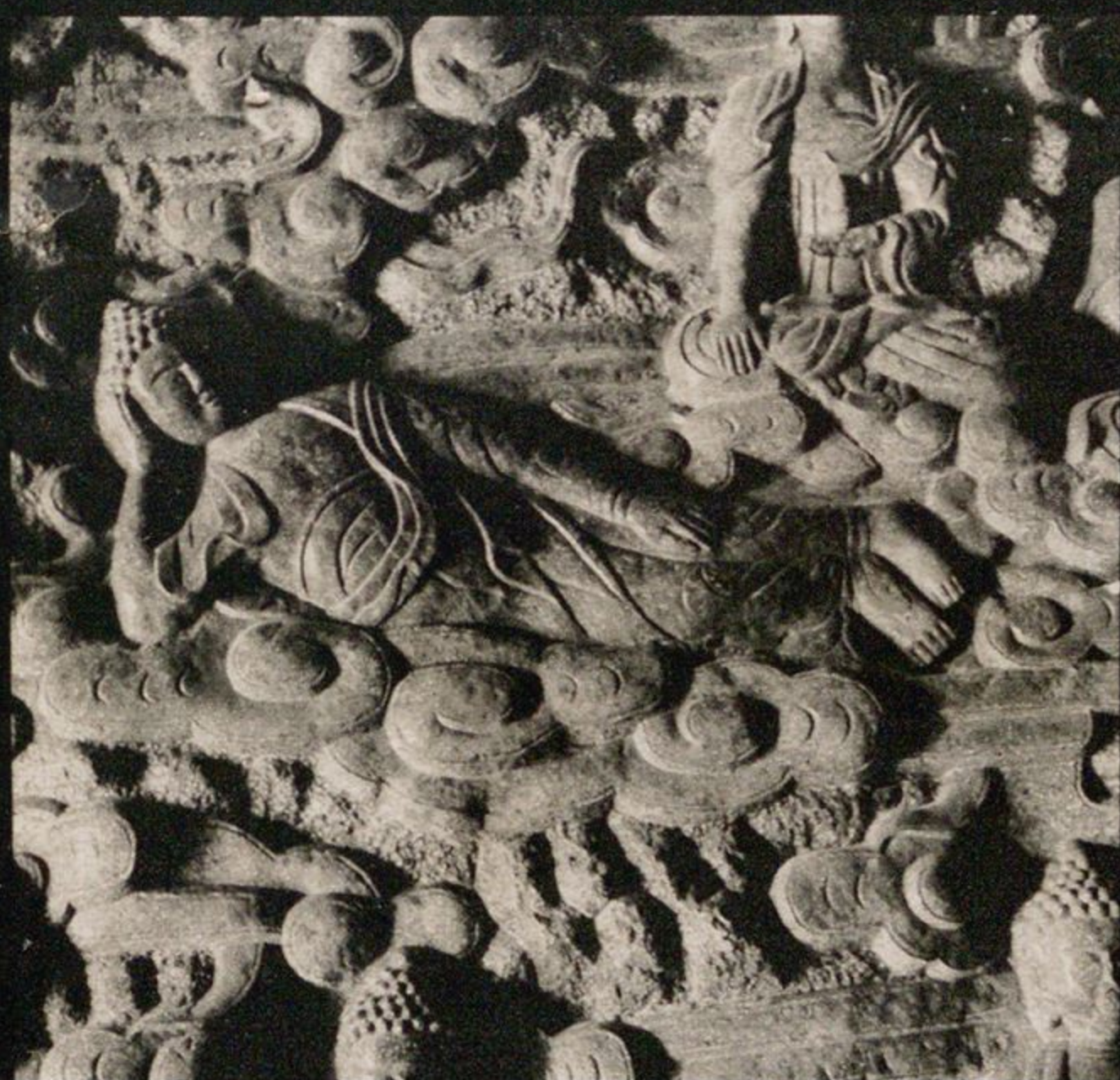
金水橋と大和門

景山

一名煤山とも云ひ、山頂に登れば北京の全貌を俯瞰することができる。元の頃、萬一北京が包圍さるる場合は燃料の不足を來たす事は必至なりと豫想して石炭を山積し、之を蔽ふに土壤を以てし、更に樹木を移植したといひ傳へられてゐる。明末、李自成が北京を侵した時、莊烈帝は痛憤して此處で首を縊り悲慘の最期を遂げたのであつた。今尙昔のまゝに蒼翠參差としてをり、史實と相照し感慨深いものがある

太廟の老柏

太廟とは天子の祖廟の意味で、太祖の廟とでも謂ふべき字義である。支那の古刹として宮闕の左方に建てることになつてゐた。此の廟も紫禁城の前、左方に置かれてゐて、五萬坪の鬱蒼たる柏樹の森に包まれた聖域である。棺には鷺が巣を營み、時々羽ばたいて靜寂を破る

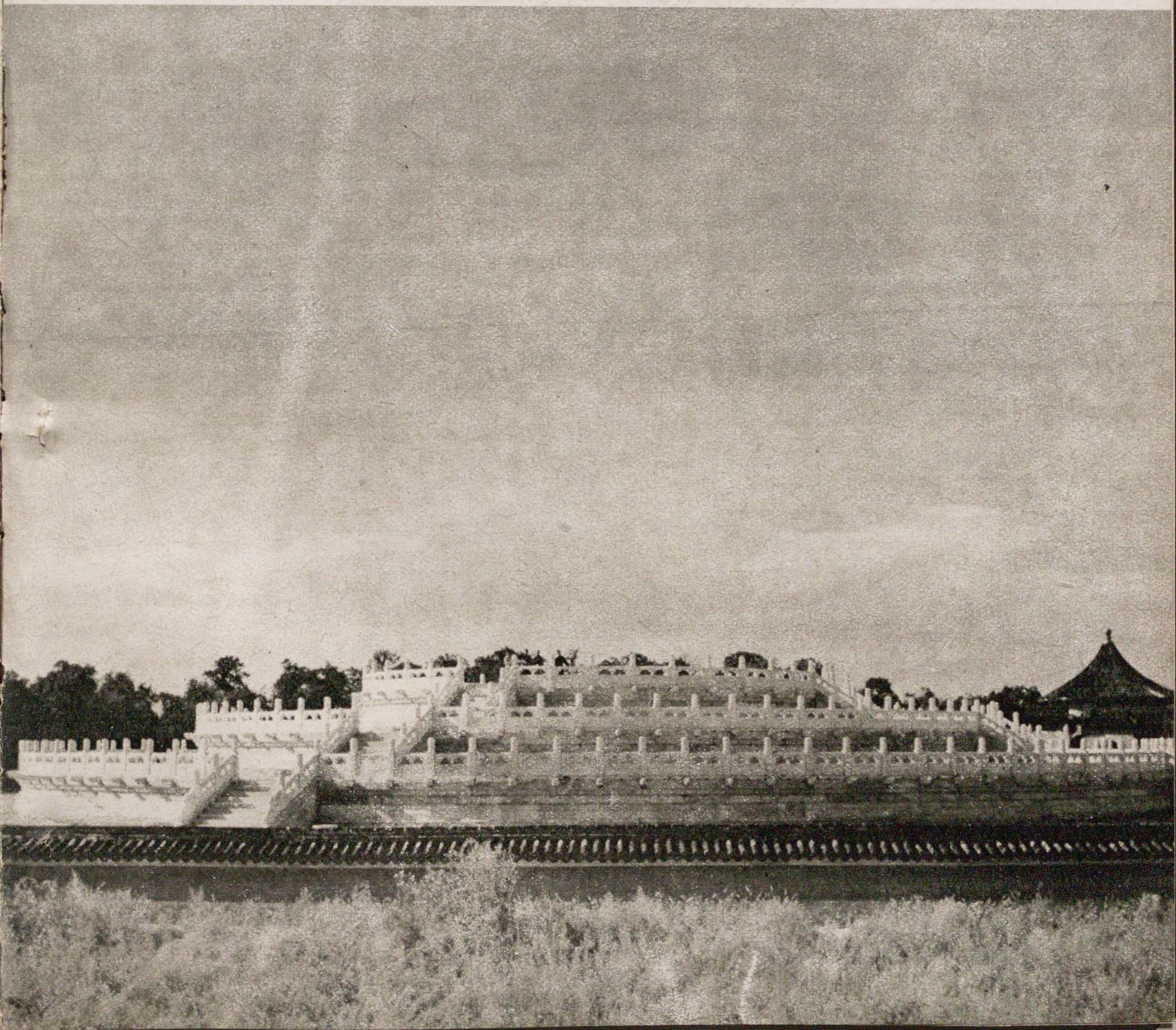
玉泉山

萬壽山の西方約一哩半、山頂に高塔聳立し、山麓に森々たる綠林をめぐらしてゐる。金朝の行宮芙蓉殿の遺址で、爾後、元明二朝を經、淸の康熙年間更に離宮を設けて靜明園と名づけた。この地には天下第一泉あり、その水は淸冽掬すべく、東流して萬壽山昆明湖に入り、更に北京什刹海より宮城大液池に注ぎ、運河となり、通州を經て白河に入る。廟の西北面は西山一帶の連巒を目睫の間に包み、南面は北京城外の廣野を一望に收めて眼下に昆明湖の幽景を窺ふ等風光極めて絶佳である。頂上に石造七級の磚塔がある。寫眞左は山頂の琉璃塔、右の四枚はその細部

北海

五龍亭より白塔を望む

金鰲玉蝀橋を以て境せられて南方を中南海、北方を北海といふ。瓊華島が大きな白塔をいただいて池の中に聳えてゐる。この邊は遼、金の時代から盛んに離宮が造營せられたものの如く、遼の蕭太后の梳粧臺や、金の李宸妃の粧臺、京北の離宮大寧宮から寧壽・壽安の兩宮等に關する傳說や記錄等も相當に殘つてゐる。山上の喇嘛塔は清代になつてから諾木汗といふ喇嘛僧の請に依つて建てられたものである。同時に山下には永安寺が建てられ、更に乾隆に及んで山後の重修を行ひ其の面目を一新した。東北隅には先蠶壇が營まれ北岸にも盛んに喇嘛廟を建て、遂に今日の盛觀を來したのであつたが、此所は斯うして古くから天子の囿苑として民間より全く隔絶せられ、民國になつてからも軍隊や消防隊の駐守する所となつてゐたものであつたが、民國十四年秋遂に北海公園として開かれたのであつた。尚、瓊華島は池を掘つた土を盛つて築いたものである。池面約十五萬坪、陸地約十四萬坪、島の面積は約二萬坪である。用ひられてゐる多くの怪岩奇石はもと宋の艮嶽に置かれて居たのであるが、金が汴京（金の開封）を陥れた時に此等の岩石を一輪車で北京に移したものと傳へられてゐる

天壇

明朝永樂十八年（西紀一四二〇年）の創建に係り、天子親しく皇天上帝を奉祀せらるる祭壇で、周圍約三哩の廓壁を繞らし、廓内更に塀を築いて齋宮、圜丘、皇乾宮、祈年殿が設けられてゐる。齋宮は禁衞兵の屯であり、また皇帝はここで祭服に更へられた。圜丘は天壇の主體で、その形圓く天に象れるが故にこの稱がある。毎年冬至の日出前、皇帝自ら三拜九拜して親祭を行はれたところ。皇乾宮は天壇の北門外にある。瑠璃瓦を以て蔽はれ、廣さ五間周圍に五十九の石闌あり、又正殿には皇天上帝及び別聖、大明、廣明、星辰、風雷雲雨等の諸神位を奉安した。祈年殿は三級の段上に築かれた宏壯な大殿堂で、現今世間に最もよく知られてゐる。ここは、歴代皇帝が五穀の豐穰を祈らせられたところである。寫眞右は圜丘、左は祈年殿

名物の金魚も種々見られる

明るい夕暮れ、ベンチに憩うて一人で居ても何故か不思議に退屈しない

公園の裏手には濠があり、ボートが遊ぶ。橋を渡つて紫禁城に至る

藤の花が老柏樹に巻きついて咲き、柏樹の花かと思はれる

紫禁城の南、天安門の西側にあつて元の社稷壇である。民國四年、公園地に指定された。園内には運動場、餐館、茶社、球房等の娯樂機關がある。先づ入口より音樂堂前を通り、北に折れると、老柏鬱蒼として、別天地の感がする。軈て廣濶な一廓の門内に入れば、社稷壇がある。附近には溫室、牡丹園があり、花時ともなれば遊覽者が多い

瀛臺遠望

中南海

即ち紫禁城の西苑のことで、南中北の三海に別れてゐる。この中で北海は夙くから外人の遊覽を許されてゐた所で民國十四年には之を公園として開放したが、南海及び中海はその境內に總統府を置かれてゐた關係上、民國になつてからも、長い間一般人の出入は禁じられて居たが、首都の南遷によつて、民國十八年から漸く開放せられるやうになり、現在、中南海公園として開放してゐる

民國以來斯うした禁苑や離宮が開放せられたことは、一般の民衆には非常に大きな福音であつたが、就中この西苑の如きは何分にも內城に於て、斯うした善美を盡した天子の囿苑として營まれた豪壯な景色が見られるところから從來民間の名勝として名を得て居た二閒の如き城外にあつた市民の遊覽地は殆んど顧みられなくなつてしまつた

南海は新華門を正門として中央に瀛臺を抱いた一郭である。新華門とはもとの寶月樓で、乾隆がその寵妃香妃の爲に建てられたものと稱される。妃はこの樓に上つて、回々營の風光を眺めて故里を偲びつつ其所に住む近親舊知と相見えてゐたと謂はれる

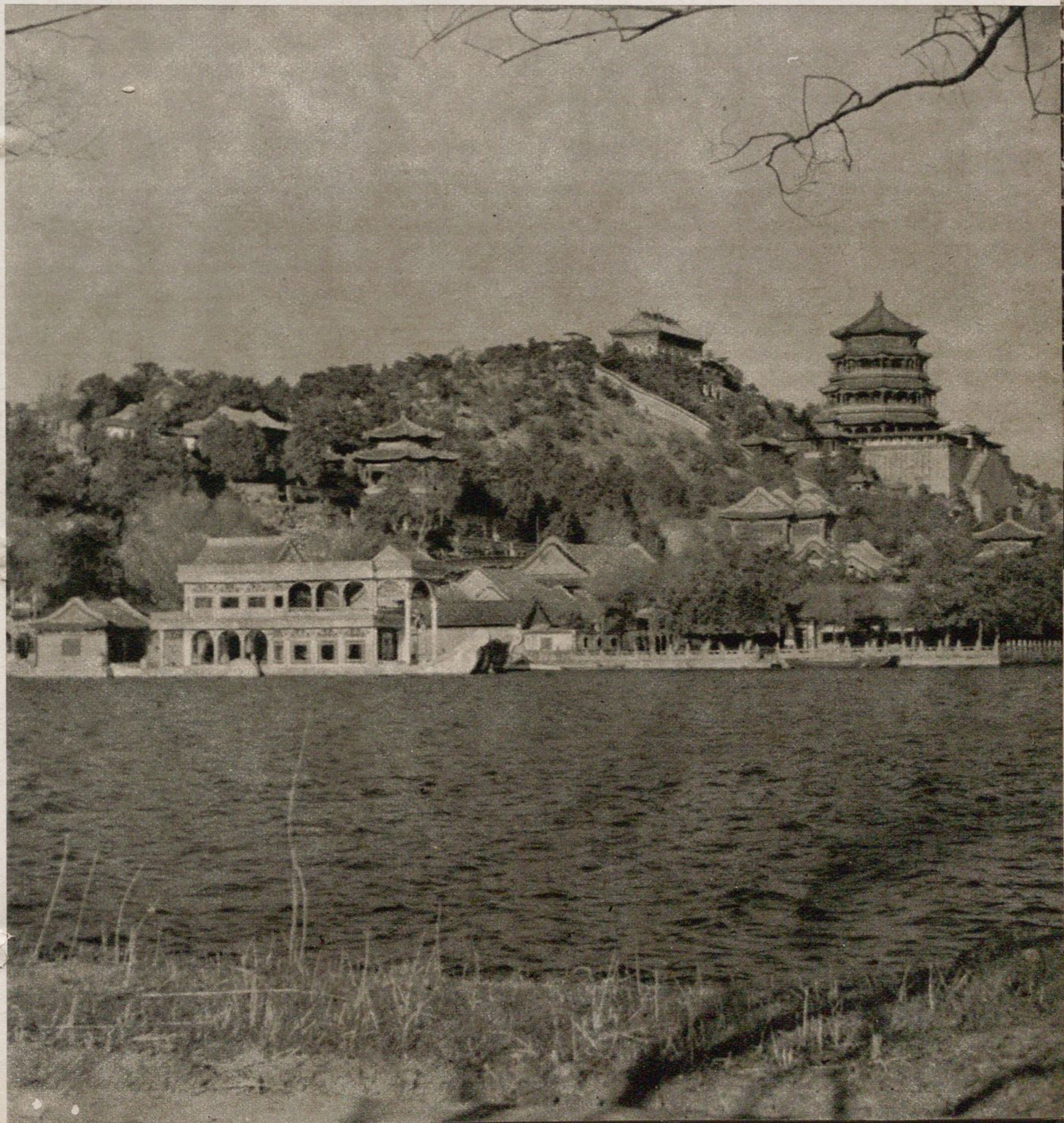
藻採り

新華門と相對して水中に浮ぶ瀛臺は明代に造營せられたのであるが、清朝になつてから乾隆時代に重修が行はれて屢〻皇帝の御遊の場所に充てられた。光緒二十四年（明治三十一年）八月、光緒帝は變法自强の政策を實行せんとして戊戌政變の厄に遭ひ、西太后の爲に萬壽山からこの中に幽閉せられ、遂に數奇を極めた晩年を送り三十八歳を以て、光緒三十四年十一月此所に崩ぜられたのである。皇帝の當時用ひられた玉床は之を物語る人も無きままに、涵元殿の東室に殘されてゐる

萬壽山

淸・乾隆以來の離宮で、八十年前英佛聯合軍の侵入に際し、多大の損害を蒙り慘狀見るに堪へぬものがあつたが、その後西太后垂簾の當時、大に修築の工を起し、或は池塘を浚渫して淸流を通じ、或は山腹を削つて徑路を穿ち、或は樓閣を起し、亭榭を設け木石を移し花卉を植うる等孜々經營の結果、山上輪奐の美をつくした樓閣殿堂は彫欄畫廊一高一低參差として或は丘に倚り或は溪を踰え、倒影水に映じて、池中更に樓閣を見るの偉觀を呈し、改修の工成つて、壯觀舊に復し、結構更に前代を凌駕した

萬壽山は一名頤和園とも稱し、從來禁苑として一般人の觀覽を許さなかつたが民國三年、玉泉山と共にこれを開放して公衆の觀覽に供するに至つた。北京より西へ約十一哩。バスの便がある

右手に聳ゆるは佛香閣、左手の白く浮ぶのは石舫

昆明湖にて

裏萬壽山

あまり人に知られない橋、そして水はあくまで清く、裏山は小鳥共の天下である

杏花、李花、れんげうなど咲くままに散るままに放置されてゐる

裏とは山の北側のことである。造園の當時は此の裏山も大離宮の一連であつたが、前述の如く英佛聯合軍の破壞に遭つて、そのまま修理も施されず只瓦石累々として狐狸の跳梁にまかせて今日に至つた

この廢墟に殘る基石や石段をみて、造營の如何に雄大であつたかを想像することが出來る

蘆溝橋

この名こそ吾々の最も印象深いものである。昭和十二年七月七日といへばあたかも七夕祭、突然起つた銃聲は天の川にも響いて、日支兩國の運命の星は遂に相離れてしまつたのである。牛郎も織女もさぞ驚いたことであらう。それから五年、戰爭は發展していつた。神々は日本をして大東亞の建設へ導き給うた

橋の長さ九百尺、幅二十四尺、大理石の欄干の柱頭の一つ一つには名匠の手になる豪華な獅子像が刻んである

牌樓

支那各地、特に北京では牌樓は一種の街の揭額の如きものである。從つて、その建築樣式も專ら觀賞用として、あらん限りの美的要素を取り入れたものである

牌樓の起源は何時の頃からか解つてゐない。隨分舊いものであらう

牌樓建立の動機は往時に於ては聖賢や孝子・節婦の德を頌する爲であつて、近世に於ける如き、單なる裝飾だけではなかつたのである

日本の鳥居、印度初期の石柱や石門、そして此の牌樓、それ等が如何なる關聯を有するのか、未だその謎は解かれてゐない。此の獨特な共通の樣式の根源に何か一つの性格のつながりのあることを信じないわけにはいかない。寫眞は北京三座門

端午節

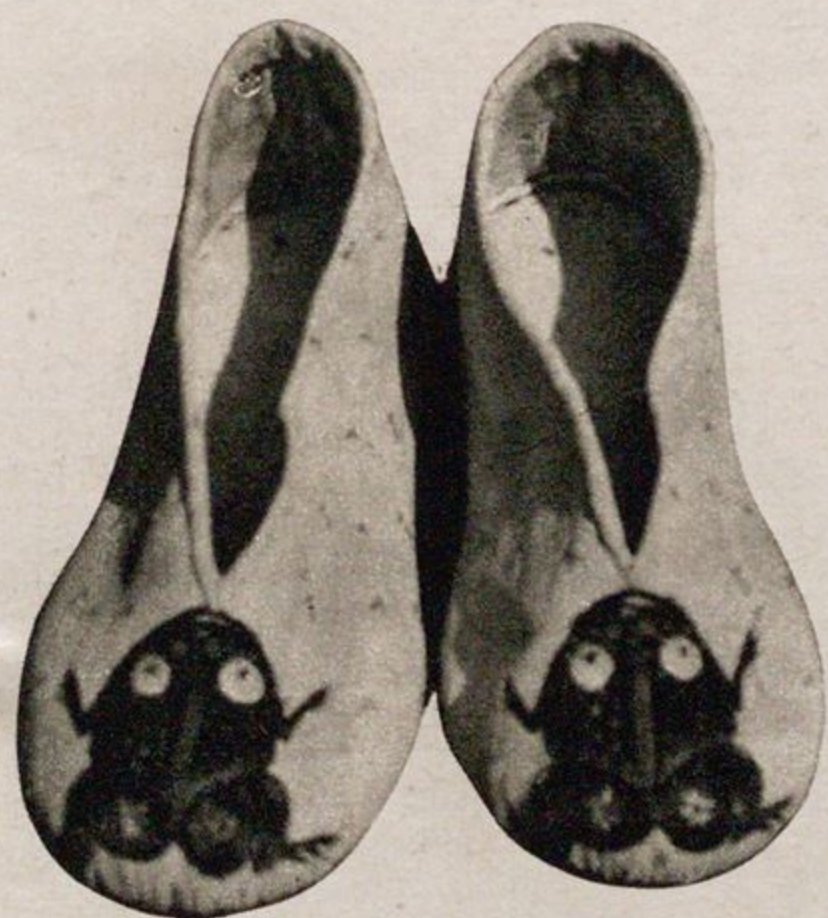
京師では五月五日を五月單五と謂ふ。蓋し、單は端の字の轉音である

毎年この日にいたる以前に貴顯豪富の家々では皆粽子をば相互に贈答し、並に櫻桃、桑椹、荸薺、桃、杏及びうどん粉をねり、砂糖餡を包んで茹でた五毒餅、それから玫瑰餅等の物を添へる。これは時節の食物を薦めるといふ意味に外ならない

小兒のある家では、朔日から硫黃を酒に合せて日向晒しにする。これを小兒

五毒符、面白い板畫である

咒符、端午の日にへうたんをさかしまに書き、門の鴨居に貼つて家中の毒氣を洩らすのだと

鴨居に天師符、五毒符を貼り、菖蒲に艾子を飾つた。さあこれで絶對安全だ

履物にも避邪の符を

の類や鼻耳の間に塗り毒物を避ける。門毎に天師符を貼る。それは祟りや禍ひを避け、悪氣を止めるためだ。天師とは後漢の末、沛（今の徐州）で生れた張道陵のことである。彼は長じて大學に學び五經に通じ、長生の術を究めて道書を著し、兼ねて病者には符水を與へ祈禱を行つて治癒させた。所謂天師道を布教した人である。かくて張道陵は避邪の通力を有すると考へてゐるのである

また天師の外に吾々にも親しい鍾馗の像や五毒（蛇・蝦蟇・蜈蚣・蝎・蜥蜴――蜥蜴の代りにげじげじの場合もある）の圖や符咒の形を畫いた符を用ひる。鍾馗といふのは、云ふまでもなく避邪の神である。俗說によると、唐の玄宗皇帝が瘧を病んで床に就いたとき一大鬼が現はれて、悪鬼共を捉へ啖つた。そして云ふのには名を鍾馗と稱し科擧試驗の落第者で、而も階に觸れて死んだ者だと云ふ。目醒めて見ると帝の病氣は癒えて居たので其の靈異に感じ、呉道子といふ當時第一流の畫家に命じて其の像を描かしめた。これが所謂鍾馗の傳說である

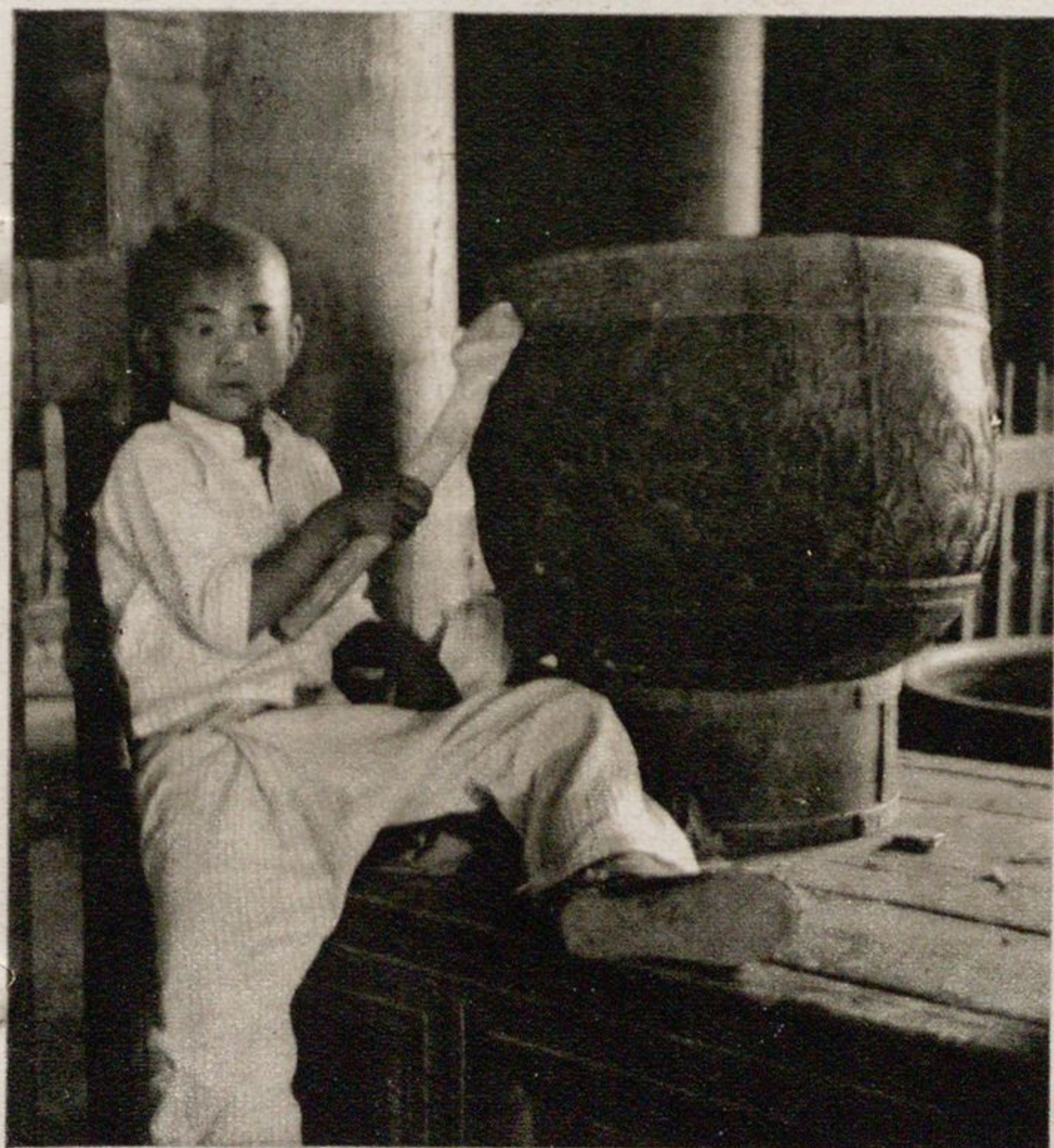
魔除けのかんざしをつけた小姐たち

また菖蒲や艾子を門の傍に挿して不祥を禳ふ。これらはこの植物が持つ特殊の香氣と藥性とによつて避邪の力が信じられたものであらう

或はまた五月五日に綵絲を臂に繋げば悪鬼や凶器を避ける、とか云つて、器用な婦女子は綾・羅の如き裂を用ひて小虎や粽子・壺盧・櫻桃・桑椹の類を製作して綵絲でこれをくくり、かんざしにしたり或は小兒の背中などに結び附ける。綵絲のことを一名長命縷とも名附けてゐる

絨老虎のかんざしをつけた少女

娘々祭

贅澤な線香に御注意、この烟で廟内は息づまるやうだ

本堂で鐘を鳴らす小孩子

供物のいけにえ

廟會の樂しさは、吾々にもよくわかる

北京の近郊には俗に五頂と稱して、東西南北中の五個處の娘々庿がある。明代から存したもののやうだ。此の五頂は何れも平地に在るがしかも頂と呼んでゐる。それは元來娘々が山頂にあるのを普通とするからである

娘々の御本尊は碧霞元君といふ三體の女神で、天仙娘々、眼光娘々、子孫娘々と云ひ、それぞれの受持ちがあつて天仙娘々は福壽を司り、眼光娘々は眼科專門、子孫娘々は子寶といふことになつてゐる。更に陪神として乳母・催生・送生・天花（痘疹）と、澤山の神々をくつけてゐる

娘々は北支から滿洲に亙つて信仰され春四月から五月の陽氣のいい頃、行樂氣分で盛大に行はれる

この神様の種類から考へて、その土地に於ける民衆の生活が反映してゐるものとして甚だ興味深いものがある

タイピスト・プール

立ちあがる北支の日本女性（一）

華北交通女子社員の生活

北支最大の國策會社である華北交通はその機構が厖大であるだけあらゆる職業の分野がある。資本金は三億圓、社員十二萬を擁するが十二萬と言へば日本の中都市を形成する人員である。日本人社員は約四萬、婦人社員はその中三千人を算へる。嘗ては婦人社員と言へば男子の仕事の手助けとかお茶くみとかにすぎなかつたが、日本でも今はさうであるやうに婦人社員は婦人の特質を充分活かす職業、進んで男子社員に代つてその職業を遂行してゐる

昨年、二千の未婚社員をもつて女子青年隊が結成された時、華北交通宇佐美總裁は次のやうに述べてゐる

「從來の女性は只優しく美しく浮世の風に當らぬやうに護られてきたのであるが、今後の女性は、雄々しく男と伍して、國家を守つて行く女性でなければならぬ」

事務員・タイピスト・消費組合の賣子食堂の係員・電話交換手・製圖工・又厚生列車員等々として誠に言葉通り優しく、りりしく活躍してゐる

これら婦人社員の心身の錬成機關として女子青年隊が結成されたのであるが「永い間待つてゐたものが遂に來た」「この多難な時代によりよく生きる爲に力強き團結が成され、今新らしく鮮かな指標を得て私は限りない歡喜を燃やしてゐる」とそのよろこびを隊員は語つてゐる

女子青年隊員の企劃部門の指導として生活指導部・體育部・教養部・弘報部に分れ、各〻活潑に活動してゐる

訓　練

女子青年隊員は原則的に全部女子寮に入れられる。一つの寮は約五六十人を收容し完全な自治生活を行つてゐる。次に女子青年隊報の一節を拔いて生活振を報告しよう

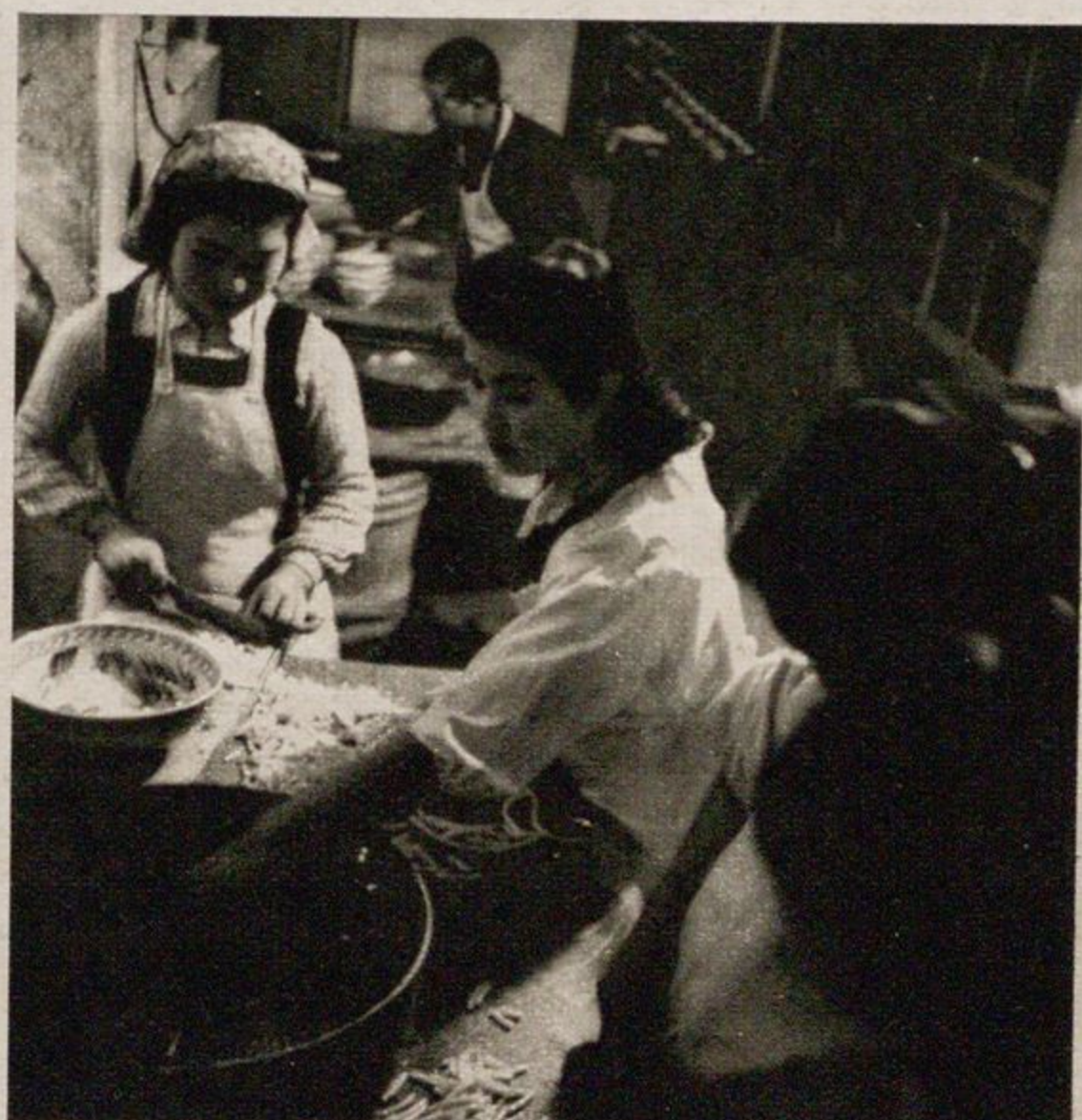
「五人交代で自炊をはじめましてから寮內の空氣が非常に和かになり家庭を離れてゐる私達にとつてこの和かさを見出したときは泣けて來さうでした。互にいたはり合ひながら皆の心が一つになつて進む美しさ、朝七時のラジオ體操がすみますと食堂は滿員です。神棚に向つて拍手の音、朝の挨拶、甲斐々々しいエプロン姿で○○さんは味噌汁のおかはりに大童。親しき空氣は溢れ昨夜の夢の話まで飛び出します。第二に時間の使ひ方を硏究するやうになつた事、ぼんやり過して居つた時間をどんどん有効に活用し又樂しく皆で遊ぶ時間をつくりお互ひに指導し合ふやうになりました。第三に野菜その他の市價を通じて周圍の動きに敏感になつた事です。季節の移り變り、中國人に對する認識が今迄より深くなつてきました。昔から鄕土食とよく言はれてゐますが私たちは飽くまで現地の材料を使ひ日本人的に生活して行かなくてはならないと思ひます」

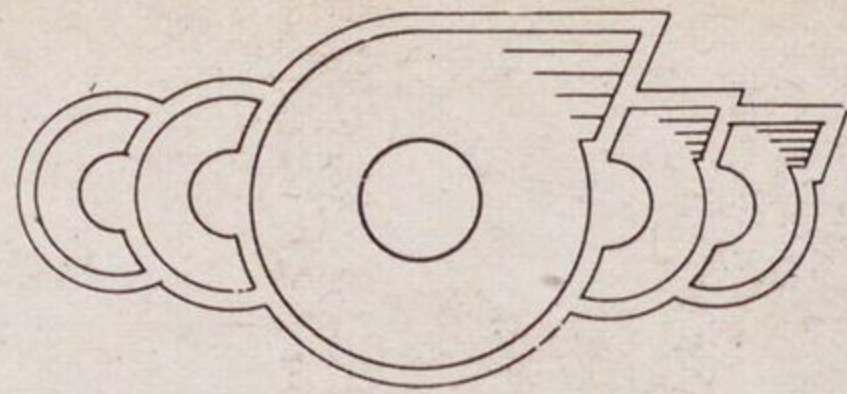
その他お茶や生花書道等の講習會があるが、それは單なる趣味としてではなく、それらの技藝を通してその精神を身につける勉强をし、又社員の奥さんである友の會員によつて生活指導講習會をもつてゐる

立ちあがる北支の日本女性（二）

華北交通女子社員の生活

華北交通は現在の如く戰ひつゝある國民として職場に於ける女性の位置を重要視し、三年勤續の婦人社員が結婚した場合は三百六十圓、五年勤續の場合は結婚退職にかかはらず千圓の手當を支給してゐる

青年隊各分隊の排球大會

炊事當番

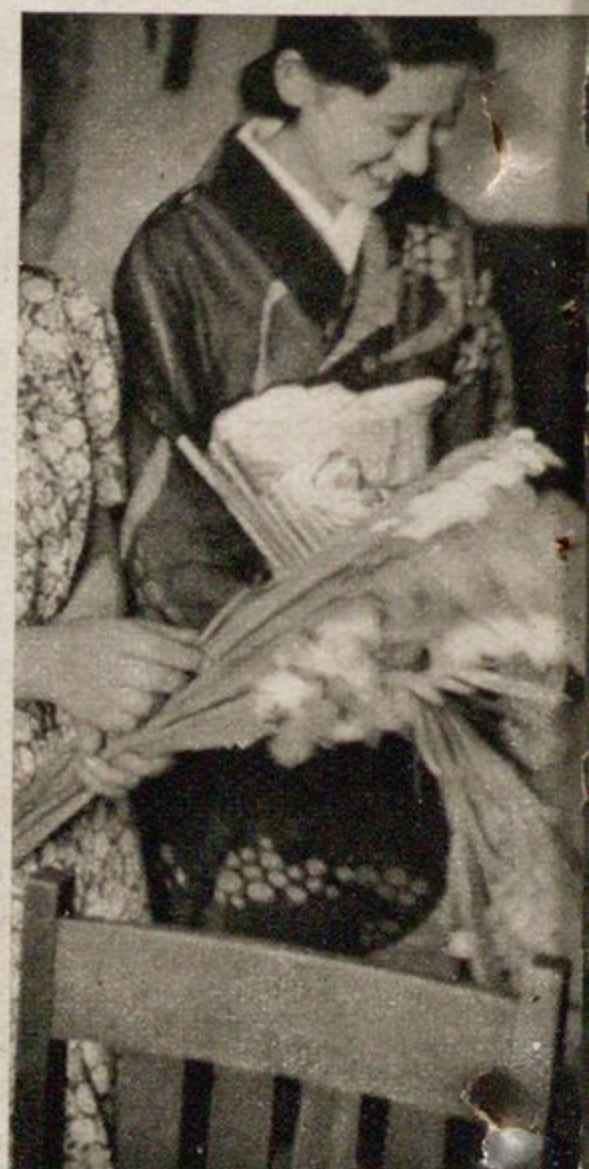
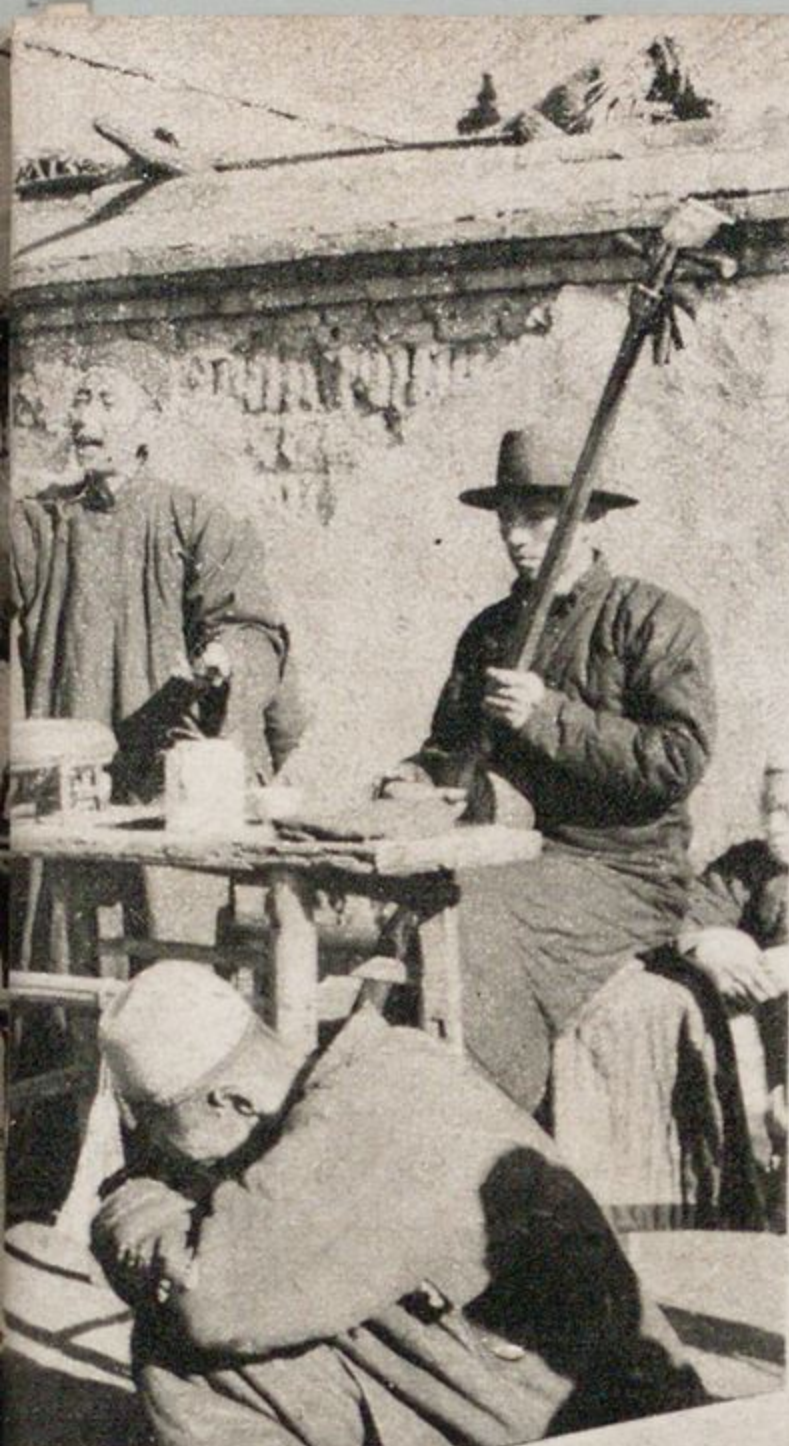
寮にて

鼓 笛 隊

防 空 演 習

茶 の 湯

病院の女子青年隊員

花を捧げて傷病兵慰問

打鼓の売藝員に迫り、聽衆寂として聲なし——京北隆福寺

足藝をやる母と子——北京天橋

北支いたるところ盛場があるとそこには必ず曲藝・手品・猿廻し・刀使ひ・槍使ひ・奇術・辻音樂など色んな藝當をやつて人を大勢集めてゐる
藝が一つ濟んで次に移る前には見物に喜捨を要求する。これが彼等の收入である。一番危險な十八番をやつて、人々がハラハラしてゐるのをつけ込んでまた要求する。ざるや帽子を持つて金のありさうな人の前にのこのこやつて來る。さうなると、見物人は面子などもあつて、いやでも十錢位は出さないわけにいかない。日本人が一番よくねらはれる

曲馬團——北京天橋

野生の栗鼠に藝をさして、日本の兵隊さん大よろこび——運城にて

「さあて、次に演じまするは冒險中の冒險、決死の熱演にござりまする……さあ出した、出した……たつたそれだけか。あと十五錢出さんか、さあもう十五錢……」見物の衆は顔と顔を見合せる。なかなか出す奴はない。さうするときた「日本の旦那」とやつてくる

街頭藝人

北京天橋にて

蒙古人の馬頭琴——ロンゲンスムにて

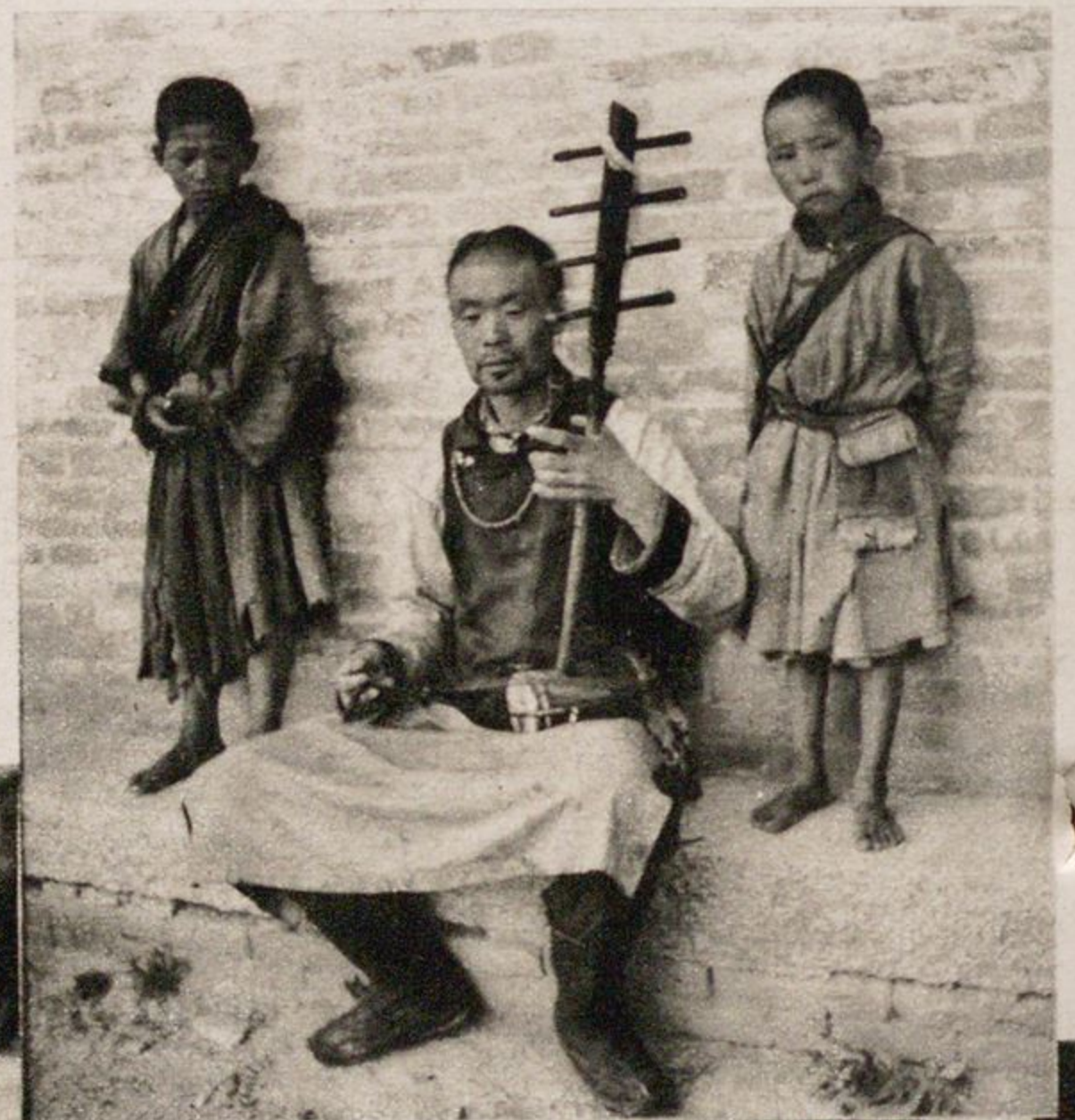
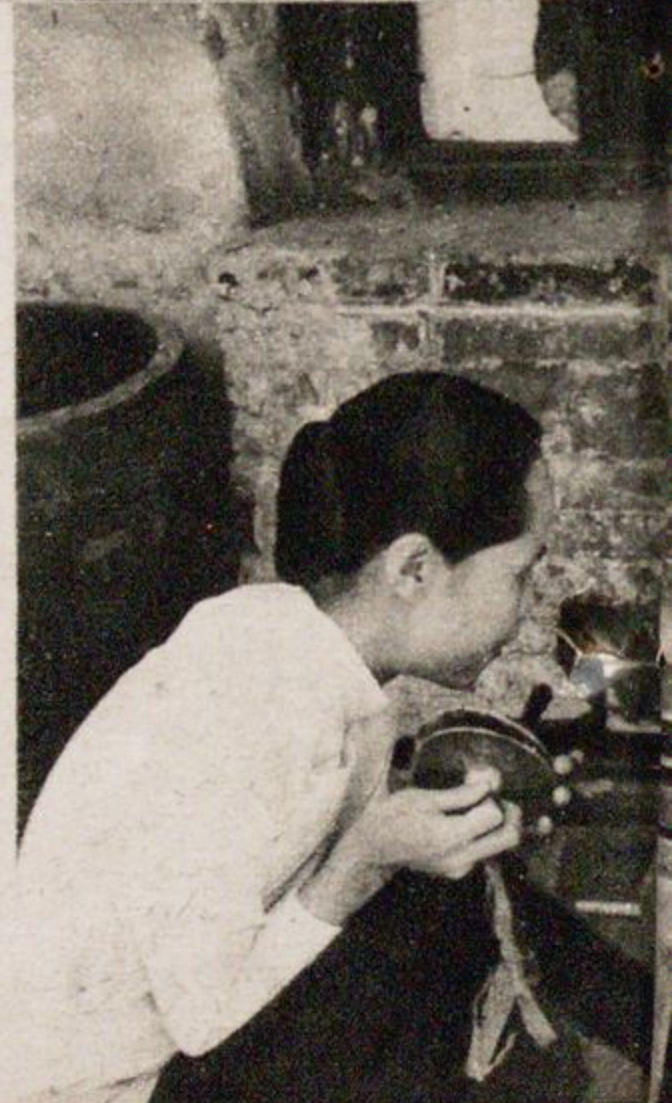
道化師——北京什刹海

盲人の夫婦——北京

一

三

二

四

今も焼く

北支の民窯（其二）

吉田璋也

（一）灰水罐

太原産。左官の道具。これは黒釉が懸けてあるが北京附近の物は類似の形はしてゐるが瓦と同じ質である。ピッチャーの代用に或は花器に使へる。口徑三寸八分、高さ三寸八分

（二）醋　罐

太原産。醬油や醋の入れ物。美しい黒釉で装はれてゐる。徑三寸五分、高さ二寸七分

（三）提水罐

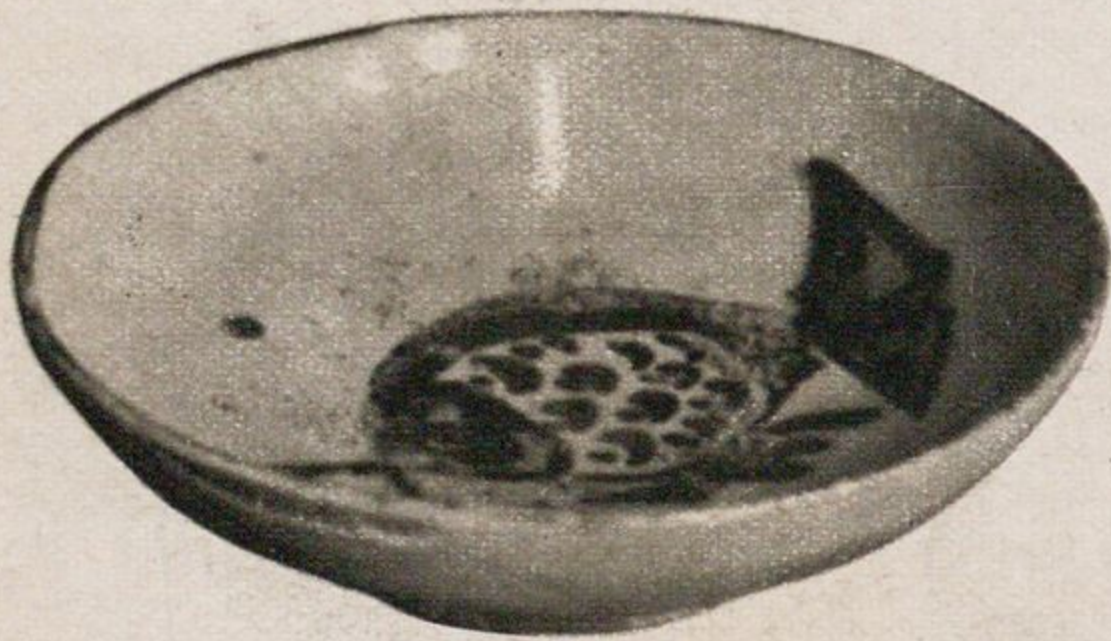
開封附近産。唐三彩風の焼物。上半は緑釉が懸り、下半は素焼のまま。水を汲む器。お湯を入れ、通風よき場所に吊せば、お湯は素焼の部分を滲透して蒸發し、内のお湯は早く冷水となる。口徑四寸五分、高さ五寸

（四）茶　壺

山西介休産。釉藥は黒。ふくよかなる土瓶。口徑四寸四分、高さ六寸

五

六

七

八

（五）盆　子

冀東唐山產。柿釉裕に高臺まで懸り緣にはなく、伏せて燒いたもの。臺所用具。徑七寸、高さ二寸五分

（六）缸

河北順德附近產。釉はなく、朱泥の如き膚。水を貯へる器。順德城內ではよく小便壺に使用せるを見る。口徑七寸二分、高さ九寸八分

（七）碟　子

山西楡次產。白懸け、魚藍繪の小皿徑二寸五分

（八）水　碗

太原產。黑釉懸けあるも日本のそば猪口に似たる形。水を吞む器。徑二寸八分、高さ二寸二分

無敵！國産第一位

スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産逸品！

―北京東交民巷所見―

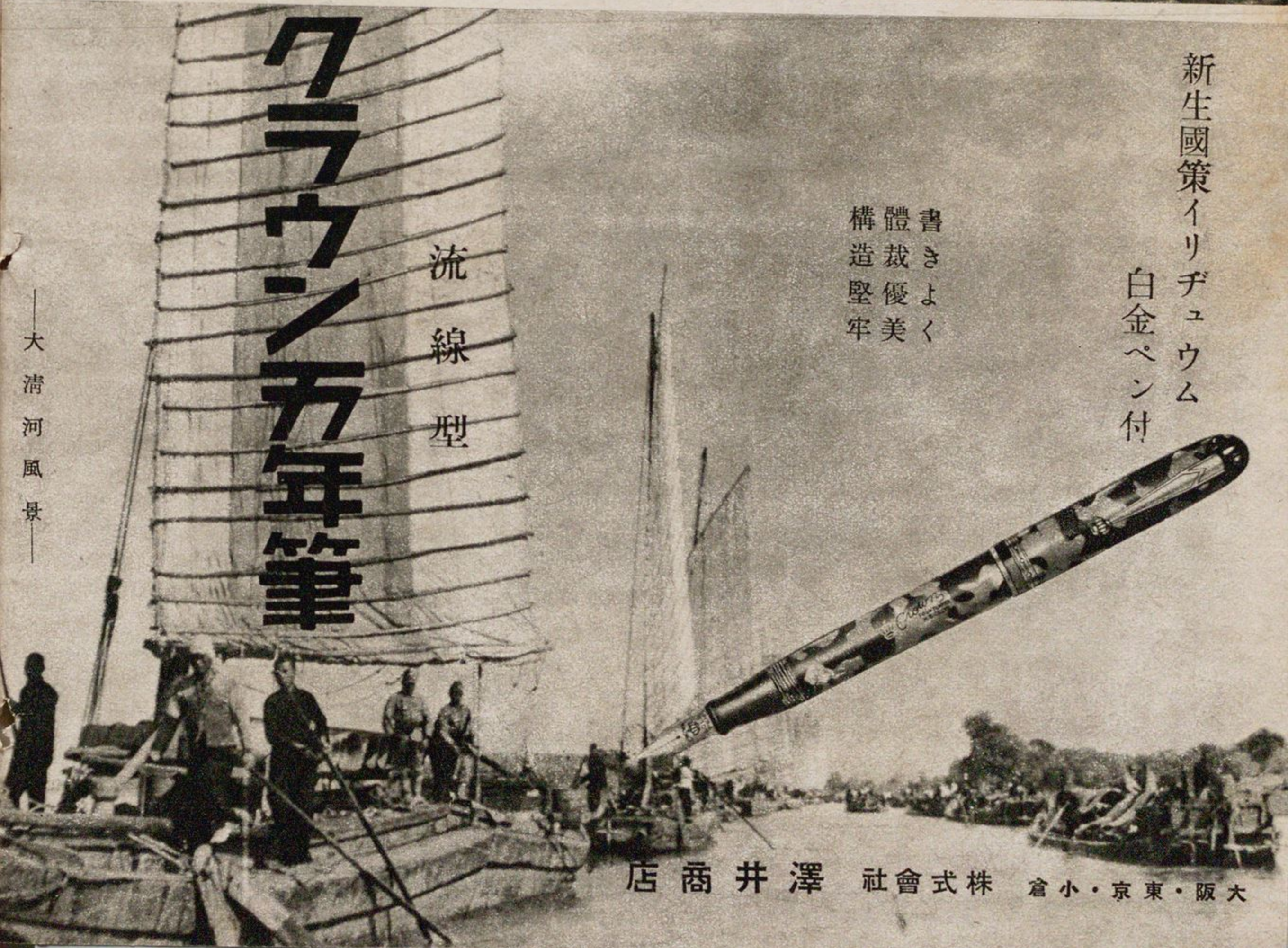
新生國策イリヂュウム
白金ペン付

書きよく
體裁優美
構造堅牢

流線型

クラウン万年筆

―大清河風景―

大阪・東京・小倉　株式會社　澤井商店

地質鑛産上の北支特殊性

冨田達

△地質學上の北支那▽ 地質學上、北支那として支那大陸の他地區から劃別される地域は、各地質時代によつて多少の差があるが、大體から云へば、西邊は五原と六盤山とを結ぶ線（北流する黄河の流路よりも稍〻東方を通過する）で劃し、南邊は秦領・伏牛山・徐州・海州の線で劃し得る。

北は滿洲への地質學的連續性を有するが、蒙古地方では陰山山脈までと云へる。

この北支那の地質學・鑛産上の事實の中で、北支的性格を有するものを摘錄する。因に山東東部の地質は海を距てて北朝鮮に連續してゐる可能性があるから、この兩地域を比較して考へることは資源開發上極めて大切である。

△先震旦紀變成岩類▽ 之は始生代・舊原生代の片麻岩類・結晶片岩類・大理石・珪岩・千枚岩類であつて、地球上の最古岩類に屬し、日本には無いものである。

片麻岩の中で、山東・河北・山西等の諸處に廣區域を占めて發達するものは、泰山系と稱せられ、その中に含金石英脈、銀・鉛・銅鑛の鑛脈、螢石・重晶石の脈がある。特に螢石脈の極めて大きいものが最近に山東北部で發見せられた。

蒙古地區の片麻岩類は桑乾系と稱せられ、石墨・石綿を產し、また同區の大理岩地帶から金雲母が多量に出る。

結晶片岩類で廣區域を占めて分布するものには、五台系の名があり、その中に、變成鐵鑛床（滿洲鞍山型）を胚胎する處がある（河北灤縣・盧龍・遷安・山西五台・定襄）。

江蘇海州附近の結晶片岩層中には、燐灰石層・マンガン鑛層があつて、この事實は先震旦紀變成岩類の十分な研究を必要とすることを示してゐる。

又、支那隨一の「ニツケル」鑛床（山東桃科莊）も、先震旦紀に屬する。

右述の樣に、本岩類は、北支鑛產上から觀て大切なものであると共に、學術上極めて大きい研究價値がある。と云ふのは、世界中でこの地球上の最古岩類を研究してゐないのは、東亞だけであるからである。

△震旦紀の大鐵鑛床▽ 謂ゆる龍烟鐵鑛がこれである。これは震旦紀層の殆んど最下部に位する水成鐵鑛床であつて主に赤鐵鑛から成り、宣化龍關區域及びその南方にも在り、北支一の大鐵鑛床である。同類が河北井陘にも知られてゐる。品位が平均三〇―四〇なのが缺點ではあるが、埋藏量が大きいことと製錬用の石炭や石灰岩が比較的近くに極めて豐富なことが其の缺點を補ふから、北支自給の觀點から言つて大切な鑛床である。

成因は震旦紀初期の大陸湖盆の內に沈澱して生じたと推定されるが、詳細な生成機巧は未研究である。

類似の鑛床は、北アメリカのクリントン鑛床であり、學術上の價値も大きいと云はねばならぬ。

△古生代の岩鹽化石▽ 古生代の最古層（下寒武紀饅頭頁岩層）中の比較的下部に岩鹽化石がある。これは岩鹽結晶（六面體）の溶けた痕跡が岩石に凹んで附いてゐるものである。

岩鹽と云つてもドイツのスタツスフ

內容

第四卷第五號

グラフ

喇嘛塔―北京西黃寺……表紙

特輯 美しき北京……1
紫禁城 景山・太廟
玉泉山 北海
天壇 中央公園
中南海 萬壽山
裏萬壽山 蘆溝橋・牌樓

端午節……21

娘々祭……23

立ち上る北支の日本女性……25

街頭藝人……29

今も燒く北支の民窯（三）……31

よみもの

地質鑛產上の北支特殊性……34

山海關の歷史……38

中國と內河水運……40

北京の堂花……42

北京の鳴り物（下）……44

可園雜記……48

支那關係圖書紹介（8）……49

ルトに産する様な岩鹽層ではなくて、下寒武紀に海水が乾いた地面上に生じた岩鹽結晶（散在して生じたもの）が後に溶け去つた跡を示すものに過ぎないものである。しかし、この岩鹽化石は世界に極めて稀なので、學術價値が非常に大きい。

北支那では、山西繁峙附近のものが最初の發見物であり、その後晋北口泉鎭附近と、山西盂縣北方とで相ついで發見せられてゐる。

饅頭頁岩層は、山東西部に標式的に發達してゐるが、此の地方には岩鹽化石は未だ知られてゐない。

△奥陶系中の石膏層▽ 極く最近に明瞭になつた大ニュースは、埋藏量無盡藏と云はれる山西中部の石膏層の存在である。この層は、奥陶紀層（古生代）の石灰岩層の間に挾まれてゐて、從來は同じく白色であるところから石灰岩層と混同誤認されてゐたものであり、此の發見は日本地質學者の誇である。

かねて、山西の奥陶紀石灰岩中に、石膏脈が無數に發達することは支那地質學者も知つてゐたのであるが、それは全く二次的生成によるものに過ぎないことが明らかになつた。

この發見によつて、例へば硫安問題は樂觀的希望が抱かれるに到つた。

今後の期待は、その層の分布、層位及び成因をよく研究して奥陶紀石灰岩の分布の廣い北支に於て更に交通便利な區域に同層を發見することである。

△セメント原料の奥陶紀石灰岩▽ 北支には、石灰岩層が厚く且つ廣く發達してゐる。これも北支地質の一特性と云へる。すなはち、震旦系では二七〇〇乃至三七〇〇メートル（四層群から成る）、奥陶系では最厚八五〇メートル（奥陶系は若干の頁岩を除くと他は石灰岩ばかり）、石炭系にも少量の石灰岩層があるが、これは極めて薄い。

これ等の中で、震旦系のものは大半は珪質石灰岩であり、寒武奥陶系のものは大半は苦土質石灰岩である。この後者がセメント原料に使用せられる。

同じく苦土質石灰岩と云つても、苦土量は樣々であつて、苦土量の比較的少いものが利用されることは云ふまでもない。而して苦土量の多いものと少いものとが互層してゐるから、採掘の實際に當つては相當の地質知識を必要とするものである。

△北支の石炭▽ 北支は石炭の國である。この石炭には古生代のものと中生代侏羅紀のものとがあり、前者には中・上石炭紀のものと、上石炭乃至二疊紀のものとがある。

先づ古生代炭を大觀するのに、山東では坊子・淄博炭田を除く外は悉く此の時代のものであつて、推定埋藏量（單位百萬噸、支那側の調査に據る、以下同じ）は、無烟炭二六、瀝青炭一五六一、河北では無烟炭三九一、瀝青炭（北京西山を除く他の地方）一〇〇三、河南（北支地區）では悉く此の時代に屬し、無烟炭三九八四、瀝青炭八七四四、山西・晋北では無烟炭三六四七一、瀝青炭八四六五五。

綏遠區域では此の時代のものは少く無烟炭三、瀝青炭一〇三。

此の外、北支に入る江蘇北部、安徽北部では、甚だ少量であつて、合計して、無烟炭五、瀝青炭一九二。

右揭の數字に基いて、それぞれの全埋藏量と無烟炭量との百分比を求めると、河南八二、山西・晋北三一、河北一六、綏遠三、江蘇・安徽北部二・五、山東二といふことになる。

次に侏羅紀炭を大觀すると、山東では坊子、淄博炭田に此の時代のものがあり、その中、坊子のものが主要である、推定埋藏量は、無烟炭〇、瀝青炭五二。河北（北京西山だけ）では無烟炭五九〇、瀝青炭八五、河南には此の時代のものは産しない。

山西、晋北では、無烟炭〇、瀝青炭三三三〇、褐炭二六七一。綏遠では、無烟炭三五、褐炭二六三。

右揭の數字に基いて無烟炭の量比を求めると、北京西山八七、綏遠一二、山東〇、山西、晋北は瀝青炭と褐炭だけであつて、炭化作用が進んでゐないが、それ等に於ける比は五五である。

植物質の炭化作用は、もとの物質の性質に負ふと共に、他に地殼變動や火山作用に影響される點が多い。一般に石炭は地質時代を長く經てゐるものほど炭化が進んでゐる樣に想はれてゐるが、北京西山及び綏遠のものは之に反してをり、特に前者に於て甚だしい。また同じく侏羅紀でありながら、大同炭には殆んど無烟炭がないのに、北京西山門頭溝炭には、これが極めて多い事實は比較研究さるべき問題であり、それに關しては兩地域の地質構造の複雜さに著しい差のあることを忘れてはならない。

北支の石炭問題は、右述の樣な學術上の問題があるばかりでなく、工業利用上の問題もあるのである。即ち、同一炭田に於ても炭層が異ると炭質が異るし、又、同一炭層に於ても場處が異ると炭質が異るから、利用目的を對象としての石炭研究はなかなか大切なことである。

筆者の希望期待としては、石炭國の北支には大規模の石炭燃料研究所があつてもよいのではないかと思ふ。

△**北支の石油存否問題**▽　石炭といへば石油の事を考へるのが常識である。

石炭國の北支に果して石油があるであらうか。之は北支自給自足の觀點から論ずると大問題であると云へよう、北支の様に石炭の豐富な地域の地下に石油が有りや無しや（勿論經濟量を對象としてゐる）を判定する最も簡單な理論的手掛りは謂ゆる炭比説である。

炭比説とは、北アメリカでの實際から歸納された學說であつて、其の要點を紹介すれば次の通りである。

石炭を含有する地層或はその下の岩層の中に石油が有るか無いかは、其の地域の石炭の炭化程度と密接な關係がある。即ち、石炭の分析結果に於ける固定炭素量を固定炭素量と揮發成分量との和で割つた値（百分率）―これを炭比と云ふ―が石油の存否を判斷する目安となると唱へられ、次の様な關係があるといふ。

五〇%以下……重質油
五〇―五五……比較的重質油
五五―六〇……輕質油及びガス
六〇―六五……比重小の石油鑛床が稀にある。ガスは多い
六五―七〇……石油兆候の程度、石油鑛床はない
七〇%以上……石油、ガス共に無し、稀に例外がある

扨てこの北アメリカでの說が支那に適用されるかどうか先づ吟味をすべきであるから、陝西省に就て吟味してみると、石油產地の延川、鄜では五八であり、安定、膚施では五九であるのに對し、石油を產しない地區では六五以上（宜君六八、同官七九、韓城八〇）である。

從つて、炭比說は支那大陸にも適用されることが明らかとなつた。そこで北支の各炭田に就て炭比（勿論平均値）を求めると、前述した様に無烟炭の多い北支に於ては、六〇%以下の値を得る處がない。即ち理論的に云つて北支では石油鑛床の存在を期待し得ないのである。

△**二疊石炭系の鑛物資源**▽　二疊石炭紀層には、石炭の外に粘土類、鐵鑛、黃鐵鑛が胚胎し、北支的性格を有するから注目される。

粘土類は粘土質頁岩として產するのが主であり、中には礬土分を多く含み、且つ硬質で耐火度の高い耐火粘土であるものもあり、礬土頁岩と總稱通用されてゐる。

二疊石炭紀含炭層の發達する地方には普遍的に產するのではあるが、河北磁縣、井陘、唐山、豐潤、石門寨、山東淄川、博山、章邱、張店、臨沂が特に有名である。

大同炭田では、結晶のカオリン層が炭層の挾みとして產すると云ふ特殊な例がある。

鐵鑛は石炭紀層の基底部に產する。前記の礬土頁岩の良質なものに伴ひ、頁岩層中に赤鐵鑛、褐鐵鑛が團塊として散在するものであるが、時に鑛層をなす場合もある（河南修武、厚さ〇・五―二・五メートル。品位三〇―四五）その團塊の大きさは大小不同（五メートルに達するものがあつた）、層中の分布は不規則、含鐵層の厚さも不定であるから、埋藏量の推定は困難であるし、また大規模の採鑛には適しない。

黃鐵鑛は、炭層中に胚胎する（山東淄川、博山、章邱、山西太原、陽縣、汾西、靈石、文水、和順、霍縣）。

炭化作用の途中で晶出したものである。此の鑛物から紅殼や硫黃が製せられてゐるが、殊に山東は支那第一の人工硫黃の製產地である。

△**新生代の赤色土**▽　第三紀鮮新統及び洪積世下部層は赤色のローム、粘土**（他に砂礫層）であり、これが北支に**

特殊な地層である。即ちその分布は秦嶺以南に及んでなく、含有する化石も北方種であり、類似層は西方に遠く甘肅新疆に及ぶ。層〻淡水介化石を含む湖成層があり、當時にあつた大湖水の悌を想像させる。赤色の濃度は、下鮮新統に見る紅殼色のものから、下洪積紀層の淡赤のものまで種々であるが、概言すれば時代が新らしくなるほど濃度が淡くなる傾向がある。

この色は當時の氣候が今よりも溫暖であつたためと解されてゐる。此の解釋が正しければ、時代と共に淡色となるのは、氣候が段々に寒冷乾燥になつたことを示すものであつて、遂には中洪積世以後の黃色土層の生成となる。

△黃色土層▽ これは謂ゆる「黃土」である。黃土と云ふ名稱は、本來は北支人の土語であつたが、リヒトホーフエンがレースと云ふドイツでの名を以て呼んでから、レースの譯語が「黃土」とされるに到つた。しかし、黃土はやはり、ホアントゥであつて、レースとは別物である。

黃色土層の厚さは處によつて異る。古い文獻には、一〇〇メートル以上の數字を擧げてゐるものもあるが、それは此の層の下にある帶黃赤土層をも誤認して、一緒に計つた數字であつて、本當の黃色土層は一般に三〇メートル以下であり、厚いものでも五〇メートルを越えないのである。

此の層の時代は、中洪積世から現代に亙り、一括して黃土時代と云へる。その生成に關しては種々の說があるが風成說の唱へる樣に蒙古やその西方で生じた岩石風化物が一時にドツと風で北支に運搬されて來て堆積されたとは信じ得ない證據が多い。

最も興味が深く且つ注意すべき產例は、第三紀乃至は洪積世下部層の赤色土層の上方の部分が黃土化してゐる場合であつて、赤色土の部分と黃色土の部分との間は漸移してをり、別期の堆積であると認めるべき證據が無い。

次に注意すべきことは、黃土の比較的厚い堆積地では、必ずその下に赤色は土が存在することである。

第三の重要事實は、黃土に局地性があること、即ち同じ樣に見える黃土も場所毎に異り、その附近の岩石の風化物を混じてゐることである。

これ等の諸事實は、黃土がどれもこれも蒙古風で運搬されて來たと言ふ說では理解し得ないことである。而して若し假に風で運搬されて來たものがあるとしても、それは比較的新らしい時代であつて（これこそ再積黃土と云ふべきである）、もともとは北支の氣候が寒冷乾燥になつたために、赤色土層の地表に近い部分は黃土化したり、各地の片麻岩、花崗岩が風化して其の場所で黃土として生成されたりしたのであつて、それが風や水によつて移動したと解するのが妥當である。

前にも述べた樣に、現代もなほ、黃土時代の一時期であつて、風や水によつて黃土は移動し續けてゐる。

△北京原人▽ 北支に於ける第四紀地質の白眉は、なんと云つても中國猿人北京種であつて、ジャバ直立猿人と共に最古人種に屬し、世界的學術價値がある。その化石の產地は周口店（河北房山縣、北京西南約四二粁）の石灰岩洞窟堆積層である。そこでは數地點で人骨並びに舊石器が發見されたが、特筆すべきことは、古人類としてアジア民族の特徵を備へてゐる點であつて、即ち原人と認め得る程度までに進化した時に於て既に、アジヤ民族はヨーロッパ民族とは異つてゐたのである。而もアジヤ民族の先祖は人間らしくなつたと同時に發火法を知つてゐたのであつた。かかる先祖の後裔が、アジヤ獨特の文化を開拓したのも故あるかなと云ふべきである。

（筆者は理博、北京大學理學院教授）

どんな寝坊介も寝て通ることはならぬ。ちやんと起きて、お金の交換もしなければならぬ。停車時間四十分の忙しさと混雜はたまらない。惡いことは又、山海關は眞夜中か夜明け方通るので、ものぐさな私は思ひ出してもいやな停車場である。このいやな停車場を華北交通で面倒みることになつた。

停車場はいやだけれども、街は嫌ひでなし、幾年前か遊んだ時は面白かつたのでスクラツプしてみようと思ふ。

清朝の初、太祖ヌルハチと太宗四貝勒の二代に亙る南侵軍を引受けて奮戰した袁崇煥の話は「山海關」といふ芝居になつてゐる。これは石原巖徹さんの「支那劇物語」に出てをり、舞臺は興城から山海關、北京、遼東にかけて波瀾曲折を極めたものです。

山海關は奉天から約七時間、四二〇粁。北京から九時間、四二二粁。天險海に迫つて天下第一の關所である。

概觀

熱河高原の裾は渤海に臨んで、その邊十粁乃至二十粁の低地になつてゐる。これを地理學では、山海關廻廊地帶といふのださうです。

關の北方六粁にある角山の頂邊から見下せば、一目瞭然、燕山をのたうち廻つて來た長城は、ここから這ひ降りて東海の潮水を飲む。此の怪物みたいな長城は、滿洲と華北をつなぐ廊下に寢そべつて、永いこと人間達の喧嘩を眺めて來ました。山の後は熱河、即ち昔の蒙古ですから山海關は又、漢滿蒙の國境でもあつた。故に此處の咽喉笛を押へたら華北の死命を決すべく、又反對に關內からすれば、此處さへ確保したら東胡の南侵を防げたでせう。

山海關の歴史

中島荒登

漢末から隋唐以來、南侵北征の兵馬交々屍山血河を築いた歷史は、山海關の性格を特徵づけたに違ひない。

明末、吳三桂は流賊李自成に北京の姬を奪られた時、旗をかへしてこの山で苦戰した。

北清事變（義和團事件）の時、聯合軍は、まづ長城から南、秦皇島にかけての海邊に上陸して咽喉笛を押へた。

第二奉直戰の時、北京を狙ふ張作霖に向つて挑戰したのは吳佩孚である。ところが味方の馮玉祥が裏切つたので吳將軍は涙を呑んで退却したのです。

滿洲事變は山海關に移つて、日支の兩軍が長城線を挾んで對立してをつたところが昭和八年一月一日、支那軍は日滿官署に爆彈を投げつけたので、わが守備隊は寡兵よく三千の敵を擊退して同三日完全に山海關を占據した。その時の戰歿勇士の忠魂碑は今、國民學校の校庭にあります。

こんな血生臭い履歷を持つ山海關も今は明朗東亞の一環として更生しました。特急「興亞」と「大陸」は、今に昭南島迄馳るでせう。

市街

汽車の窓から平房子—客車みたいなカマボコ型の屋根が見えます。

驛の南三哩は海に沿うて、由ケ濱の海水浴場あり、昔は此の邊一帶に堡塞を築いてをつた。義和團事件の後、各國守備隊が駐屯した兵營はこれを改造したものださうである。その他海岸には寺廟など若干あつたのが、やはりこの時の兵火に燒けた。

驛前から眞直ぐ北に商店街を行けば

南門（望洋門）である。大體山海關の街は本城、東羅城、南關、西關の四つに分れてをり、本城（縣城）は明の永樂年間に作る。城壁の高さ四丈、厚さは二丈、周圍一里八丁、四門を開く。東は鎭東、西は迎恩、南は望洋、北は威遠といふ各〻門樓を築いてをる。

謂ゆる「天下第一關」の扁額は、東門の樓上にあり、明の蕭顯の筆、大きさ一字六尺平方。

城內は、鼓樓を中心に棋盤目の街を作る。東門外の關廂に當る一郭を圍む城壁があるのは、東羅城と稱して滿洲旗人の住んだところ、これに對して西門外にあつた西羅城は、工事半ばに遭難したのである。南關は卽ち驛と城南をつなぐ繁華街、この頃邦人が多いので日本街ともいひます。

沿革

山海關は、隨分名前を變へられた街である。

漢代には臨榆縣を今の錦縣の西界口外の地に置いた。

唐初には、改めて今の灤縣西北界に置き、平州の治となした。同じく唐の武德二年、州治を盧龍縣（舊永平府）に移したが、同七年これを省き、貞觀十五年には復活してをる。萬歲通天二年、名を改めて石城と稱し、宋の宣和四年、名を賜つて臨閭と謂うた。ついで金代となり、また石城といふ。

元初には省いて樂亭に入り、清の雍正三年、再び樂亭、撫寧の兩縣を分けて臨榆縣を置いた。地名辭典を見るに本、古の渝關の地なり。又の名臨渝關又臨渝關とも稱したやうです。

明代になつて初めて、通稱山海關の名を以て臨榆縣の所在地としたのである。かくて滿洲建國以前迄河北省臨榆縣に屬してゐたのが、國境線の決定により城市の一部、東羅城は綏中縣に編入されて名を第一關と改めた。

停車場の歴史

然らば山海關の停車場は何時出來たか？

一八八〇年（明治十八年）のこと、時の直隸督辦李鴻章は、開平礦務公司の石炭を運ぶため唐山から胥各荘まで鐵道を敷くことにした。というても、騾馬に曳かせる輕便鐵道であります。それが翌年六月に開通した後、又延長することにして、八七年八月には天津につないだ。

今度は北に延して九〇年、山海關につないでをります。だから山海關に停車場が出來たのは一八九〇年になる。

その後、歐洲に資材を借りて北へ北へと延び、南方へも延びました。

一九〇〇年の義和團事件の時は、關外線はロシヤ、關內線はイギリスが管理したさうですから、山海關は變てこだつたに違ひない（その前に營口支線の借款をした時、ロシヤとイギリスはトラブルを起してをるのだから）。けれども、亂がすむと何れも返還したので一九〇三年又工事を始めて新民まで完成したのです。

一九〇四年、日露戰爭が始まると日本は新民から奉天まで軍用の輕便鐵道を敷設したが、これは戰後（光緒三十三年、明治四十年）淸國政府が讓り受け、宣統元年滿鐵から改築費用の半分、三十二萬圓を借りて廣軌になほした。

それで、たうとう一九一一年、北京と奉天の間、京奉鐵路が開通したのである。滿洲事變後、關外は國有になつて奉山線、關內は京山線の二つに分れたが、其後いろいろ協定して昭和九年七月一日、北京奉天直通列車の運轉を始めました。

更に支那事變後、旅客激增して、昭和十三年三月には北朝鮮まで、同年十月遂に釜山迄直通したのであります。

さて、そのやうに鐵道が通じても山海關は揉まれた街、停車場が出來てから五十餘年になるけれども、性格の本質は變らぬでせう。

昔から山海關は、密輸といふ人間の弱點を斷面圖に描くのである。

名所

萬里の長城と、孟姜女の話は切捨てて、姜女廟は城東八粁、岩山の上にあり、姜女の足痕まで岩の間に殘つてをる。廟の後に望夫石があります。尙、東方の海岸水中に浮ぶ姜女墳は、姜女入水のところ。石ころに過ぎない。

棲賢寺は又の名、角山寺、城北三粁角山の頂邊にある。境內に湧く水は龍井と稱して、眼病に效くといふ。

玄陽洞は、棲賢寺の東北三粁、俗稱仙人洞なるもの、山上の太平岩を利して一宇をなす。

二郎廟は角山の西南約二粁、首山の上にあり、秦の大將李冰の次男二郎王を祀る。乾隆三十年の建と稱するも、拳匪の亂に荒れ果てて見る影もない。

五泉山は城の西北十五支里、山に五泉あり、流れて沙河に入る。半腹の五泉寺は春の花、秋の紅葉の眺めよし。

名物

名物としては、酸梨と石河の鮎とあるけれども、鮎は姿も見たことがない。

此の頃、驛の賣り子は燒鷄、その他日本式の柿餅、串團子も賣ります。それから、山海關ではまだ影戲をやつてないかと思ふ。私はそれと、驢馬に乘つて長城を歩くことを時々夢に見る。

（筆者は華北交通資業局員）

中國と內河水運

華北交通・濟南鐵路局調査科

水利と開發

中國の文化は、或る場合には、治水文化と呼ばれ、また中國社會史は水と人との闘爭史であるとも云はれてゐる様に、中國の歴史も、文化もまた河川から切り離して考へることは出來ないであらう。

黄河は渺茫たる過去の時代から、青海、甘粛、寧夏、綏遠の奥地を源に尨大な黄土を何百年の永きに亙つて運び出して、今のやうな中原の大平原を現出した。これによつて古代漢民族はこの黄河流域に農業文化を生み出すことが出來たのである。

昔から中國にあつては、南船北馬といふ言葉が實證する如く華北は天津、濟南を中心とする水綱は、相當に頻繁ではあるが、全體的に見て華北は遠く華南の發達に及ばない。

けれども、鐵道や自動車運行のなかつた十九世紀以前に於ては物資輸送や人間の往還がこの水運による事が最も簡便であつたといふ事は、南北何れも同じであつた。又一面、工業社會の成立に原則的な條件として石炭と鐵が要求される様に、人工灌漑、つまり運河を無視しては中國に於ける農業經濟は望まれない。

この運河は舟運と云ふ意義の外に、雨量の少い支那に於ては作物に必要な濕度を與へる唯一手段である事も我々の忘れることの出來ない重大な意義である。年々歳々の洪水に對しても、この運河はどれ程防禦の役目を果してゐることであらう！

しかし、中國の如く大工灌漑の行はるべき面積が、餘りにも廣大で、これに要する勞働力の巨大なところでは、個々の村落や一地方に於て自主的にこれを單獨で行ふことが出來ず、唯中央集權的政治權力の上からの干渉によつてのみ行はれることが可能であつた。

支那歴代王朝の水利政策

中國の歴代王朝は、この運河といふ中國農業生産の基礎であり、不可缺な條件を管理することによつて人民の上に君臨することが出來たといふ見方も可能である。

春秋以前には、有名な禹の治水の傳說があり、秦の始皇は涇水から洛水に向け、中山の西から瓠口に達する三百餘里の運河を穿つた。

この運河開鑿が、どの様に當時農民達に迎へられたか、これは民間傳承による當時の民謡によつても知ることが出來る。

涇水の水の一擔ひ
豊なる泥土よ
灌漑をし、肥料を作り
卿等の作物を稔らし
首都百萬の人を養ふ

これによつても涇水の運河完成が、當時の民心にどれだけの利益を齎したか知られよう。

これあるが故に、漢の武帝は「大いに卒を起して」黄河の治水を遂行し、隋の煬帝は洛陽と黄河を結ぶ運河から更に江蘇運河、衞河大運河等の開鑿を完成せしめることに熱心であつた。

後代、この運河開鑿と土民の徴用は帝王權力の暴政に結びつけられて多くの怨嗟を生んだけれども、またこれが次の時代の農民にとつては、どれ程福利を招いてゐるか知れないのである。

その當時の大運河は、渭水及び汴水のコースを利用して、長安或は大宰莊から河南省を横切り、淮安に至つて、そこから南方に曲つて杭州に達してゐたと實證されてゐる。また、沁水から分れてゐる他の部分、卽ち河南省北部と、山西省南部に於ける黄河の支流の一つは、今日の北京の附近の沌郡まで來て、此處で止つてゐる。

史話によれば、この運河の開鑿に當つて、揚子江の南部、淮河の北部地方から百餘萬の男女が動員され、帝は龍船に乗つて皇妃や群臣を從へ、羊數百頭に船を曳かせて洛陽から遠く揚子江の江都まで行幸したと云はれてゐる。

唐朝では、かなり積極的な治水政策

が行はれ、堤防と運河との修復や、完成によつて百萬支畝の土地が灌漑されたと云ふ記錄や、宋代の諸々の水利工事をはじめとし、元代では今の大運河の大半を完成し、明の太祖の時に至つては、四萬九百八十七件の治水工事が完成され、遂には清朝の絢爛たる水運文化の基底を作つたものである。

こんな風に内河川の經營が、政治と民生に如何に重大な役割を占めて來たかは、支那歷代王朝のこれに關する關心と施策とによつてもうなづけるのであるが、これは現代の如く鐵道や自動車運營の行はれる時機に至つても、決して優るとも劣づてゐないのである。

鋼鐵とゴム、石炭とガソリン――この科學と文化を背景として大陸を馳驅する近代裝備の交通機關に比べて、内河川の舟運は一見正しく時代遡行的な存在であらうが、これが河川沿岸に巢喰ふ青幫ギルトの民族的慣習と結果の下に行はれてゐることと、治安と内河水運の不可分の關係を知るならば、内河川整備の必然的要求が明かにされて來るであらう。

最近迄の華北内河航運

次に近代までの水運の概況に就て簡單に觸れてみよう。

前述の内河川弁運の光榮ある歷史に劃期的な變化を齎したのは、今から約六十年前、中國政府によつて設立された招商局の海運政策である。これによつて舊來、水運の事業となつてゐた南方米の輸送は、海運にとつて替へられた事であつた。しかし、これをもつて水運の使命は亡失したといふことは出來ない。

奧地深く農產物の移出や、土民の往來には、その百有餘年に亙る永い間に培はれた特殊組織と傳統的慣習による特殊狀態によつて、これを早急に自動車や鐵道に轉換されてはゐないのである。

この事實は、省内内河川に新らしい使命と意義とを植ゑ付け、鐵道幹線の培養路線として、機械船の運航が企圖されるに至つたのである。

民國三年には、天津に内河行輪總籌備處が設立されてゐたのを始めとして濟南に濟渤汽艇社、華通汽艇及び天來輪船局等の汽船會社が續出したのである。しかし、資本の弱少や、經營の不備は、この經營成績に香ばしいものは齎さなかつたが、これに更に一つの轉換を與へたのは支那事變の勃發であつた。

事變とともに軍は水路沿岸の民心收攬に着手すると共に、内河水運の經營を華北交通に委託したのである。

即ち昭和十四年七月、華北交通は、濟南濟渤汽艇社の所有船舶（汽船）二隻と、一切の權利を買收して、濟南航運營業所を開設して、小清河の旅客並に荷物の運輸營業に着手し、續いて十月には、天津市政府内河航運局の施設と、汽船十一隻を買收して、これを傘下に收め、同じ月に南運河（天津―德縣間）、子牙河（天津―王家口）及び東北河（蘆台―豐台）間に配船し、漸次航路を擴充して、營業キロ四八九粁を確保した。

一方、華通、天來、天豐等の各既存汽艇社を買收して、船腹の增强を圖ると共に、汽艇船十八隻を整備したのである。以來、軍事行動の進捗に伴つて沿岸農村の復興は目覺しく、從つて物資の出廻りは旺盛となり、事變以來久しく影をひそめてゐた民船業の急速なる勃興が自他共に要望せられる結果となつて來たのである。

事變後の内河水運

そこで、華北交通は、昭和十五年三月、中國内河航運公會解散の後を享けて、その所屬人員と施設財產を傘下に收め、（一）航運の指導統制（二）警備―歸順兵を以つて組織する河防隊―（三）行政代行事務を繼承し、民船の全面的指導統制とその復興を圖ることを方針として、運營に着手したのである。

その第一着手として、劃期的なことは、從來國際運輸の經營に係るところの民船航行權を吸收して、六月二十日以來、大清河の三大航路に民船三十隻乃至六十隻を以て組成する定期船團航路を開設、月二回乃至三回に亙つて運行せしめたことである。

また、小清河及び黃河、鹽運河、大運河の各主要河川にも、逐次、不定期船團航路を新設するに到つたが、その營業路線は四千四百粁に達し、ここに民船貨物輸送は本格的軌道に乘つたのである。

この間、幾多の困難や障害に遭遇したが、その使命の重大なると、全從事員の懸命な努力により、この困難を克服し、爾來運營の合理的整備は着々と成果を揚げるとともに、鐵道貨物の水路向輸送を實施し、船車一貫、輸送の實を擧げ、一方集貨に積極的政策を講じ、輸送の强化を圖りつつ現在に及んでゐるものである。

北京の堂花

槐南童子

屋花の一夏

「堂花」といふのは、人工によつて作る季節外れの室咲き花木のことで、室內に置けるもの、唐花とも書く。而して唐花の法は、北京獨特のものがあります。

日下舊聞考に曰く「京師の風俗、冬になつて地窖に花を養ふ。これは漢代より既にはじまつた。當時大官園では冬時分に葱、韮、菜、茹を蒔いて、屋廡の覆をする。そして夜晝となく燃熅するうちに諸菜皆芽を出すのだ。少府の召信臣は、これ皆不時の物なり、人に傷あれば供養に進ずるのはよろしくない、と云ふので奏してこれをやめさせた。但し此の法は、菜蔬を養ふのでまだ花木を栽培したことはなかつた。

今、內家では十月に牡丹を進ずるがやはり此の法によるのだ。

然して漢代には屋廡の覆をしただけであるが、今の仕方は皆坑塹を掘り、窖にするのだ。蓋し、土中は冬になつて暖いので所養の花木は土氣と火氣と半々に借りて育つ」

燕京歲時記には、東西兩廟（隆福寺と護國寺）の唐花について述べてあります。そのやうに北京の堂花は、昔から盛に行はれ、今に傳はつたもので、烘焙する花類もなかなか多い。

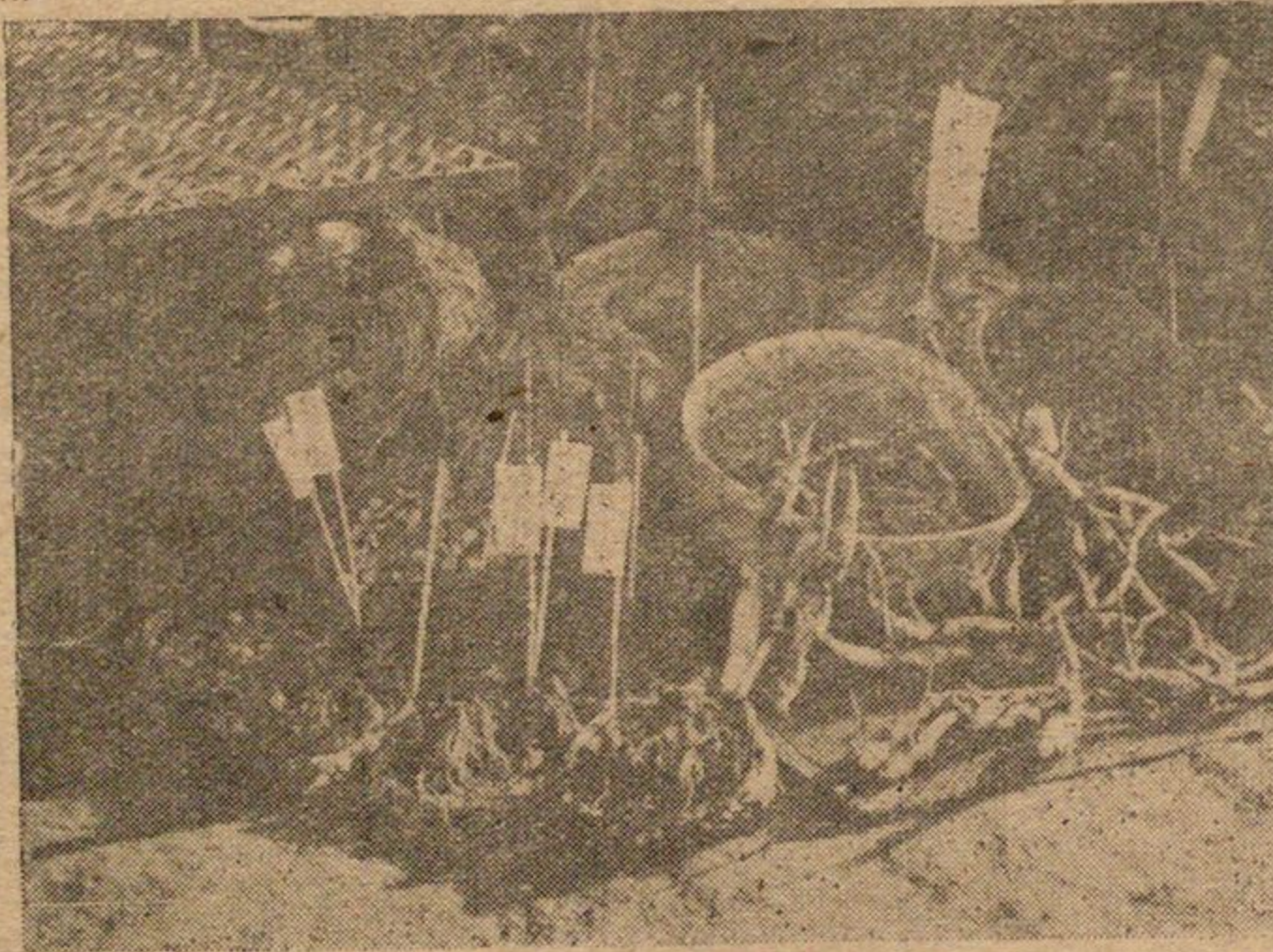
その方法は、屋內に烘房をこしらへその後に地炕を作る。炕の前には、深さ三尺程に土を掘り、その中に花を置く。さうして火氣を入れてやると春に先だつて花咲くのだ。

但し、花の種類によつて、火加減、乾濕も調節せねばならぬので、なかなか難しい。

此の頃の花屋は、年末のうちに季節の違つた花木を同時に咲かせ、一緒に盆栽して賣り出す。それで新年になると、中流以上の家庭では、よくテーブルなんかの間に並べてをる。

しかし、その佈置盆景の法を見たらおほかたよい加減なものだ。

こんなのは、どうしても名家の指導を仰いだ方がよいので、ボンクラの花屋なんか、そんなに易々と出來ることではない。それはともかく、北京花匠の技量は立派なものです。

京華春夢錄に曰く「花窖匠僧、善焙卉葩、手術至る所、能く四季の名花をして期に先だつて開かしむ。日色亭午賣花の聲あまねく巷閭に聞え、曲欄の麗人爭つて購ふ。姹紫嫣紅、佈置新粧まさに前人の艷記、云ふ所と異らざるなり」

山茶、茉莉、蕙蘭、珠蘭など、針金を以ていろいろの形に編み、鬟にさし

草花の根を賣る（護國寺廟市）

たり、襟につけたりする。

また、芍薬、碧桃、海棠、玫瑰など蕾のうちに摘んで、大きな花球とか花かごを作つて室內にかけます。

園藝花

北京では昔、花匠のことを花把式と云つてをつた。藍靛廠（萬壽山街道途中）の扦子劉先生は扦子菊（一本一花の菊を扦子と云ふ）の特技によつて有名になつたのである。

東直門の接手胡先生は、ツギ木の名人なのでこんな名前を頂戴した。

又、よく季節外れの花木や蔬菜を烘焙するものがあり、これを薫貨と云ひます。巧を矜るものは即ち昔のいはゆる唐花で、これはおほむね豐臺土着の業者から傳習するものだ。

昔は宮中、府邸から第宅みな花匠を傭うて、春夏秋冬、花を養うた。而して養花の抜量ある者は、偏僻な空地の多い所にゐて、花廠を營んでをり、時期をきめて各家庭に賃貸しするので、隨時新花と取り換へます。

又、市中に呼び賣りする花賣りから或は廟會とか路傍の屋臺店から買ふのもよい。

光緒庚子以後、市中に始めて花局を開く者があらはれ（崇文門内は外國人が多くて賣れ行きがよかつたので、一番早く出來た）店頭店內にいろんな花木を陳列して買ひ手の撰擇にまかすやうになつた。

街上の花賣り

民國になつて此の種の花局は漸増して、籠花、盆栽、瓶花なども備へ、隨時慶祝とか宴會の需めに應ずるやうになつた。

花木の種類は、枚擧の煩に堪へない程であります。花局の自ら植ゑるものも多いが、その林圃は、專ら柳、松、柏、橡などの苗木を卸すもので、普通の花局とは少し性質が違ふ。

北京の花屋の數は、崇文門內、東四牌樓、西四牌樓、隆福寺、護國寺、宣武門外下斜街の土地廟など合計約三十軒。養花業者は城外四郊に散在して、豐臺十八箇村と合せて百軒以上、工人は兩方合計千三百餘人と聞いてゐる。

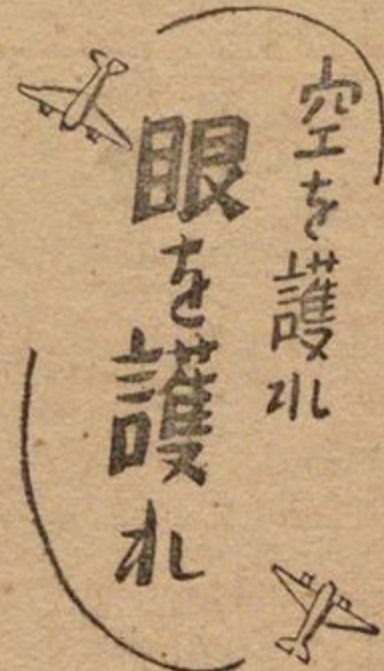
花廠と花局の店員は夥計といひ、外に花を配達するのは脚夫と言ひます。その賃金は、段々にあるけれども、此の頃花屋はめつたに傭ふところは少いので、多くは他に轉職した。

北京の花匠は、閲歷に富み、特殊技術は持つてをるけれども、惜しいことに科學的知識がないので進歩がのろいのです。

春になると私は、隆福寺の花屋に行つて、花木の名前をみたり、時には草花を買ひます。も少し老人ならば花屋のおやぢと仲良しになつてもよい。

（筆者は華北交通資業局員）

北支の鳴り物（下）

早瀬　譲

北京の街頭の鳴り物にも四季の變化は見られる。正月には鼠使ひのチャルメラ（﨤兒姜）、猿芝居の銅鑼、人形芝居の大小二個の銅鑼、陸船（門付けの農人芝居）のにようい八（鈸）と太鼓など。ついで饅頭賣り（賣愛窩窩者）の小彬、飴賣りの蘆笛、扇子屋の銅の小鈴が胡同を往けば既に夏だ。

梅酸賣りの氷盞の音が綠蔭に萬斛の涼を呼ぶ。やがて世界一の北京の秋を謳歌してゐると、もうすぐ風が寒くなる。木々は落葉する。子供達の世界の遊び方も變り、樣々の形をした「たこ」（風箏）が、澄んだ空におよぎ、その「たこ」につけた風琴、銅鑼、太鼓などが不思議な音樂を奏でる。そして胡同の辻やあちこちの寺の緣日の市には琉璃ラツパや晡晡噔や空鐘の店が並ぶのである。

かうして北京は、舊正月を峠にして街々辻々の鳴り物の種類は夥しい數にのぼり、不思議に明るい北京の情調をそそるのである。また、秋から冬へ、冬から春へと、よく晴れた北京の空を廣々と、より透明なものにして呉れるのは鴿笛である。

この鴿笛の種類は、葫蘆、二筒、三聯、五星、七星、九星、十一眼、十三眼、三排、五排、衆星捧月、十七眼、瀛洲學士、子母鈴など數へ立てて來ると數十種、數百種にものぼることであらう。さらに冬の夜の凍る寥寂のなかに夜廻りの叩いて來る梆子は、一里以上も遠くから聞きとられ、それらの遠い音、近い音の交響は、年古りた北京の都を思はせるものである。なほここでは說明は省くが、古式で出すお嫁入りの鳴り物、葬式の鳴り物など、勿論季節に關らぬが、如何にも悠々たる大陸の古調を傳へてゐて北京の人の海のやうな心が餘りにもあくせくとした時の心を整へて呉れる。

さて、北京の鳴り物もあと、三弦、笛、報君知、乍板、匏、盆、錫簫、鼓、鼗、梆、﨤兒姜などについて略述し、本稿を終りたい。

三弦（賣卜者）

これは盲の賣卜者の使用する樂器で俗に弦子と云つてゐる。西河詞話には「三弦は秦の時より起る」とあり、それは鼗（ふりつづみ）と太鼓の二つの樂器の音と形とを變へて作つたものであり、唐時代に盛んに用ひられた。

光緒會典によれば、三弦は燕饗慶隆舞樂に用ひられ「三弦斵檀爲之修柄、方檀而刓其角冒以虺皮、通長三尺二寸四分八厘、柄長二尺九寸一分六厘（中略）匙頭鑿空內絃以三軸綰左二右一云云」とある。三弦は唐以前には皆撥子を使用して彈じたが、いまではその方法はすたれ、指の爪彈きである。

笛（賣卜者）

矢張り盲の卜師の鳴り物である。これは日本の明笛の如く橫吹きである。

舊唐書音樂志には、七孔の笛は漢武帝の時、丘仲がこれを造つた。もと、羌中に出でたもので、唐詩の「羌笛何須怨楊柳」といふところのものはこの笛である。なほ古今注に「橫吹きは胡樂なり」とあり、馬融の長笛賦には、「この器は近代に起り羌中に出づ」と

あり、羌笛は漢代に於ては横吹といひ六朝に於ては胡篪、隋唐に於ては横吹と稱し、また羌笛と呼んだ。
　中國の古樂器中の簫管は、すべて縱吹きであつたから、横吹きは西方傳來のものと言へる。

報君知（賣卜者）

　同じト師でも目あきの鳴り物であるこれは二個の竹片から出來てをり、一つが他より稍ゝ巾廣い。之に似た樂器は、餘り見受けないが、强ひて言へば柏板に似てゐる。柏板といふ樂器は紫檀などの硬木で造り、光緒會典によれば、なほ數種のものがあつて、燕饗慶隆舞樂などに用ひられた。

乍　板（修脚者）

　修脚者は、いはば足の美容師で、爪やたこを剪り取るのを業としてゐるもの。日本でも歌を歌つて來るお貰ひも時にこの同じやうなものを鳴して來るのを記憶してゐる。
　この起りも隨分古く、その形も多いのである。古人の「光光乍」と唱へたものは卽ちこれであるといふ。

匏（賣椰瓢等小販）

　日本でいふ荒物屋の鳴して來る鳴り物である。彼は椰子の實で作つた杓子やら、たわしやら、箒や柳の籠などを賣つて來る。俗にこの鳴り物を「瓢」といふ。ただこれは自分の賣つてゐる瓢を棒で叩いて來るのであつて、家庭で水を汲むのに用ふる品物なのだ。
　八音中の匏とは笙、簧、竽などであるが、齊如山はこの瓢の音を匏の音に加へてゐる。けだしまた特異な響をもつた北京の鳴り物である。

盆（賣盆者）

　餘り値段の高くない、多く綠色をした燒きもの（北京では大きいのは洗濯用に、小さいのは食器にも使ふ）を賣る商人の鳴り物で、これは小さい木の杖でこんこんと叩き鳴らす。八音に音を求めると土質のものといふべきだらうか。
　田邊尚雄氏の中國音樂史の一節に、原始的の食器は平素食事にこれを用ひ時に興に乘じてはこれを打つて樂をなした。これは食器ではあるが、叩いて娛しむ時は、そのものが樂器と變るのである。といつてゐるが、まさに彼等の盆はこれであり、「齊景公飮酒、去冠被裳而鼓盆」また「莊周妻死、鼓盆而歌」とあるは皆この類である。
　これらは胡同の生活の深くにちんだ鳴り物として後の梆などと共に記憶したい。

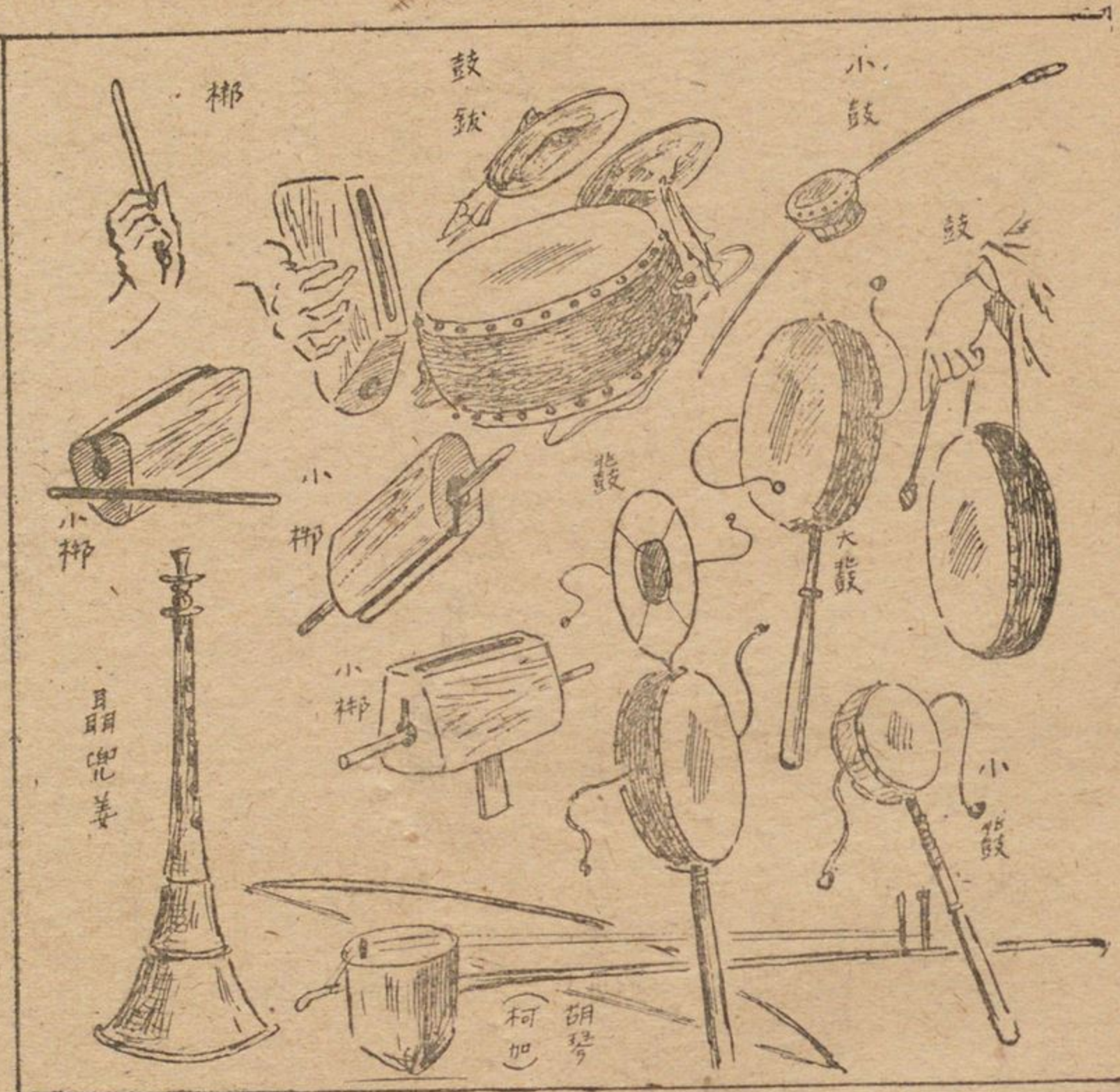
餳簫（賣糖小販）

　春頭に飴賣の吹きならすもの、これも珍らしい素朴な鳴り物の部に入る。
　蘆の葉を卷き、筒にしてこれを吹くのである。また或る時はそれを素燒の瓶型の筒の底の孔に挿入してこれを吹く。來源は古く、沈佺期の詩には「馬上逢寒食、春來不見餳」とあり、また樂書には「胡人捲蘆葉爲笳吹之、名曰蘆笳」又云ふ「漢有吹鞭之號、笳之類也、今牧童捲蘆葉吹之云云」

鼓（賣卜者）

　盲のト師の鳴り物である。鼓の種類は中國には極めて多い。これは徑六七寸位の太鼓で、而も片手で吊し、その同じ手にばちを持つて擊つやうに出來てゐる。そしてこれは横擊ちであることも中國の太鼓の擊ち方としては珍らしい。
　一歲貨聲の「瞽目算命」の註に「或彈弦、或吹笛、或擊鼓、帶唱曲」とあるは卽ちこの太鼓である。

小　鼓（打鼓的）

　屑買ひのことを打鼓的といふ。
　彼は握こぶしのなかに入つてしまひ

さうな小さな胴の片面のみ皮を張つた「つゞみ」を細く長い鞭のやうな棒で擊つて來る。この北京の打鼓的には二種あつて、その一つは打硬鼓的（タインクウダ）と呼びその鼓は小さくて音が硬い。この方は主として骨董的な價の高いものを買ひいま一つは打軟鼓的（タルンクウダ）といひ、この方は鼓がやや大きく、買ふ品物も紙屑、古新聞、古瓶、粗い木器などである。

一體、片面にのみ革を張つた鼓は支那劇で用ひる單皮鼓であるが、これはさうしたものよりもずつと小さい。

大鼗（賣布小販）

これは反物屋の鳴らして來る鳴り物である。また炭賣りもこれを鳴らして來る。俗に大搖鼓といつてゐる。ふりつゞみの大型のものである。

爾雅釋樂に「大鼗謂之麻。註曰、麻者、音槩而長也、又名鞞、又名鞮」とある。しかし「麻」は今日各種の音樂のなかに傳はつてゐない。ただかうして街頭に殘つてゐるものを見るのみである。

小鼗（賣布者）

同じ反物屋でもこの方の鳴り物は、少し違つてゐる。俗に播稜鼓といふ形の小さいふりつゞみであり、大鼗が吊げてふるに對し、これは鼗の方を上にして搖るのである。すると胴の兩側についてゐる振り子が鼓面を打つ、ぽろぽろと、實によい音を立てる。

同じ爾雅釋樂に「所謂小者（筆者註鼗）謂之料、又作鞀、注云、聲清而不亂」とあり、宋陳暘樂書に所載の繪も亦これと似てゐる。これはまた播浪鼓とも云ひ、今日では各種中國の音樂のなかからは既に逸脱してしまつてゐるが、かうして街頭の物賣りのなかに殘つてゐるのは喜ばしい。

鼗（賣雜貨小販）

小間物屋の一種で、靴べら、齒ブラシ、竹櫛、組紐、かんざし等々を賣りに來る物賣りの鳴り物で、ふりつゞみの上部にさらに絲針屋の鳴り物である雲鑼を取りつけたもので、一種の組合せ樂器である。そしてこの鼗は、前記

の鼗と違ひ、俗に貨郎鼗と名付けてゐる。その鼗の大きさは大鼗と小鼗との中間位である。

鼓・鈸（跑旱船者）

謂ゆる太鼓の小型のものと「にようハ」である。

跑旱船者とは、陸船ともいひ、冬の農閑期に村の子供が女子に扮裝し、布製の船に縛して俚謡を唱ふ。これらは北京の南郊のものが多いといふことである。鼓と鈸とは卽ち彼らの使用する鳴り物である。

さて、太鼓でこれに相似たものは、光緒會典に所載の俳鼓がこれで、俳鼓は面徑一尺二寸九分六厘、匡の高さ四寸三分一厘、腰徑一尺三寸六分四厘とある。また鈸（にようハ）は、同じ光緒會典に、鈸は鐃歌淸樂に皆これを用ひ、左右擊ち合せて音を出す。面徑六寸四分八厘、中隆起一寸二分九厘六毛、徑三寸二分四厘とあり。ここのにようハによく似てゐる。

又、此の由來も古く隋書の九部樂のうち五部までがこれを用ひてゐる。いづれも銅盤を型どつたものである。

梆（賣油小販）

食用油の小賣商人の叩いて來る木製の鳴り物、日本の木魚の原始的な形をしたものと思へばまづ當る。俗に梆子といはれる。

山西方面に始まつたといふ秦腔と呼ぶ歌曲は、樂器として梆子を用ひるので梆子腔とも呼ばれ、北京に來て一度は非常に流行したが、卑わいであるため禁止となつたといはれる。

この梆子は同種の小型の木魚であるなほ、齊如山はこれは古への「柝」だと考證してゐる。

易繋辭に「重門擊柝、以待暴客」、左傳哀公七年の條に「魯擊柝聞於邾」などによるものである。

小梆

これは、賣愛窩窩者、賣甑爾糕者、賣燒餅油炸果者などの使用する鳴り物で、少し宛異つてゐるが、大體同じやうな小型の梆子である。

賣愛窩窩者のものは適當な木塊に鑿で穴を穿つたもの。

賣甑爾糕者のものは、佛具の木魚の形に近い。また、賣燒餅油炸果者のものは、大體、賣愛窩窩者に似てゐるが更に今少し小型である。

なほ、愛窩窩とは、糯米の粉を丸めてその中に白砂糖や黒砂糖、またはその他のものを入れて蒸して作つた菓子である。甑爾糕は、糯米で作つた蒸し菓子の一種で、常に暖かくして賣つてゐる。

燒餅は麵粉を醱酵させ、それに胡麻油をつけて燒いた餅、油炸果は矢張り麵粉をこね、それに鹽又は砂糖を加へて細かく輪にして油であげたもので、この二つは度々本誌でも紹介された通り北京では朝食に食べるものが多い。

聶兜姜（要耗子者）

鼠（耗子）使ひが吹いて來るチヤルメラのことである。

俗に鎖吶といふ。また嗩吶とも書くやうである。本は小さく、末が大きくなつてゐて長さ一尺四寸あまり、上口に長さ三寸の銅管をつけ、その上に蘆哨をつけてゐる。本管の部分には正面に七孔、後部に一孔、左側に一孔あつて縦に吹く樂器である。

ところが此の聶兜姜は、淸朝回部樂用の蘇爾奈、卽ち右に說明したやうなものと一寸は似てゐるところがあるが實は異り、まさしく淸朝粗緬甸樂用の聶兜姜である。これは光緒會典によれば木管、銅口、竹の節の如き形をし下部に近く太くなつてゐる。管の長さは一尺三寸二分、徑九分五厘、前面に七孔、背面に一孔あり、銅口の長さは六寸八分、圓の徑は五寸九分となつてをる。管の端は盤の如くで、銅の哨をさし入れ、更に蘆哨をつけてこれを吹くといふのに同じものである。

なほ、鼠使ひは正月頃が多い。

*

以上で大體終つたのであるが、是非とも附け加へたいのは胡弓賣りの鳴らして來る胡琴である。

胡琴

普通に胡弓賣りといつてゐる。弓をもつて奏するからだらう。

胡琴はもと胡加（又は㓒加）と稱し世界最古の樂器であるラヴアナストロン（五千年前、セイロン島の王様ラヴアナの發明したものといふ）から出て來たもので、印度から西へはアラビアへ、東には中國、日本に傳來したものらしい。

乾隆勅選皇朝禮器圖式によれば、燕饗番部合樂に胡琴を使用してある。これは「竹柄椰檀面以桐二絃、通長三尺三寸四分八毫云云」とある。

普通に街頭に賣りあるくものは、これの簡單なもので、彼等は彈きながら行く。また故都北京に相應しい風景である。（完）

（筆者は東亞新報連絡部長）

可園雜記

加藤新吉

三月初、東京から歸燕の途次、鄕里に祖先累代の塋域を拜し、父と弟との墓に香華を供へ、昨秋すべかりし弟の十三回忌を營み、序を以て生家に二夜を寢た。

鄕里は福岡市から十里、三奈木村といふ。昔は美奈宜と書いたらしい。式內美奈宜神社が鎭座ます。ところが南方二里、筑後川添の蜷城村にも同名の神社がある。蜷城は昔はニナギであつたともいふ。どちらが御本社か判らないが、もと神功皇后の熊襲征伐にゆかりの社で附近に皇后の御事蹟に因む地名が散在する。

村は筑紫平野の北に極まる山峽にある。少年の日、山に登つて遙かに光る野末の一線が有明の海であることを父に敎はつた。海まではすべて田圃である。その頃、山に登つて光る海を見るのは樂しいことであつた。曾てその話を野口雨情氏にしたら卽席に詩を書いてくれた。

山に登りて幼きころは
とほく有明の海を見し

博多灣の方は端山に遮られて見えないが、これも平野續きの坦々たる道が通じてゐる。その道の半に萬葉に「今もかも大城の山のほとゝぎす」と歌はれた山、現名四王子がある。太宰府が置かれ水城が築かれ刈萱の關が設けられたのがその山裾、平野の最も狹い部分である。そしてその平野が再び東に廣がつて筑後川と山地とに終るところに木丸殿と名乘の關はあつたといふ。

黒田長政は平野の北の界をなす山續きに一族重臣を配置した。支藩秋月の五萬石を首とし、その東に黒田播磨、そのまた東に栗山備後、この備後の封ぜられたところがほぼ木丸殿の舊趾に當る。私の遠祖は豐前中津在から出て姫路の黒田如水に仕へ、黒田播磨に附けられ、主家の筑前入國に從つて三奈木に來り住んだ。それから三百年、子孫々ここに生れここに死んで今日に及んでゐる。

家は竹木に圍まれた草葺の一軒家、何代か前の祖先の隱宅として建てられてから既に百年以上を經てゐる。維新後本宅を潰して長男の伯父は元の長屋に、次男の父はここに住んだ。だから村人は伯父の家を御家、父の家を御部屋と呼ぶ。父が生きてゐた間定紋付の提灯には加藤隱宅と書いてゐた。維新前後、野村望東尼が屢〻來往したといふから、或は維新史のどこかに關係してゐるのかも知れない。

麥はたのなかの小川は見えねども
こゑさわやかに鳴くかはづかな

これは今もある北向の座敷に坐つて望東尼が詠んだ歌、短册もある。もう一枚「川筋ごとに飛ぶ螢かな」といふのもあつたと、これは亡き父の記憶にだけ殘つてゐた。

私達兄弟男の子ばかり四人、祖母と父母とに愛しまれつつ、貧乏しつつこの家で育つた。その幼年時代の所謂竹馬の友の一人が數十里の遠くから會ひに來て呉れた。杜詩にいふ、人生相見ざる、動もすれば參と商との如しと。意はずも三十幾年ぶりに燈燭の光を共にし夜雨に春韮を剪つて昔を語つた。またの夜は村に殘つてゐる小學同級生の大部分が會した。三日二夜はまつたく親戚故舊と共に過した。そしてその人達が齎した自家生産の赤砂糖や鷄卵や野菜などに人の情と村の香とを滿喫したのである。（筆者は華北交通資業局長）

支那關係圖書紹介（8）

東洋史關係（二）

近世支那外交史　矢野仁一著　一册

歐米の東洋侵略、露支關係等は、本書に於て、最も詳細明白に論究されてゐる。支那史料を根幹とし、英米獨佛露等の史料を縱横に驅使し得る點に於て現在本著者の右に出るものはない。現時、最も注目さるべき述作であらう。

同じ著者による**支那近代外國關係研究**、**日清役後支那外交史**等は、必ず併讀されねばならぬ。但し、高度の述作であるから、そのつもりで讀み始める必要がある。

支那近世史講話　稻葉岩吉著　一册―日本評論社刊―概說清朝史である。清朝史に於ける主要問題を取り上げて纏めたもので、色々の點に於て示唆に富む著書である。

同じ著者の**清朝全史**―二卷―は、早く大正初年の刊行、ひろく行はれて、華語譯書も出たほどであり、今日に於ても尚教へられるところ尠くない著述であるが、遺憾ながら今日では殆んど入手し得ない。

東洋文明史論叢　桑原隲藏著　一册―弘文堂刊―專門的な論著集であるが支那の紙の歴史とか、支那人の食人肉の風習とか興味ある問題を取り上げてゐる。著者の微密精確な論斷に就ては定評がある。

東洋史統　市村瓚次郎著　五册―冨山房刊―出版されたのは未だ二册だけであるが、概說東洋史としては、恐らく最大のものであらう。

老熟した著者の眼界は最も廣く、凡ゆる學說を巧みに融合消化した點は流石に耆宿の手に成つたものであることを首肯せしめる。完成の曉は、最も優れた東洋史概說書として目せられるであらう。

增訂滿洲發達史　稻葉岩吉著　一册―日本評論社刊―滿洲といふ局地的のものであるが、滿洲の理解なくして近代東洋史は理解されない。

本書は、概說滿洲史として最も權威あるものであらう。

東洋研究史　バルトリド著　外務省調査部―譯譯　一册―生活社刊

本書の全名は、歐洲殊にロシアに於ける東洋研究史といふ。歐洲、殊にロシアに於て古來如何なる東洋研究が行はれたかの歴史である。ロシアの東洋研究は、幾多の貴重な業績を擧げ、決して等閑視出來ないものがある。本書は彼等の業績を知るのに最もよい手引きである。

東洋歴史大辭典　九册―平凡社刊―

現在では、最も大きく又最も好い東洋史辭典である。執筆者は東洋史學界の中堅どころ、百名近くを動員してゐるし、各項共に引據を示し、署名しての責任執筆なので、相當信用も出來るし、或る題目に就ての參考書、參考論文などを探すのにも便利である。

慾を云へば、まだ題目數が足りない上に、項目の撰擇法にも難があるなど云へるけれども、兎も角、一應便利に出來てゐて、東洋史の問題を取り扱ふ上には是非欲しい一本である。

特に現在の北京の樣にまとまつた研究室も圖書館も無いところでは、相當程度に利用し得る。

東洋歴史地圖　箭內亘　和田淸編

一册―冨山房刊―讀史に地圖は不可缺であるが、歴史地圖の製作は極めて困難なため、殆んど出版を見ず、現在のところ、これが唯一のものと言つてよい。本書の利用價値は大きい。

支那文化史蹟　十二輯　常盤大定、關野貞著―法藏館刊―史蹟などは、百の說明も一の圖版に若かぬことが往々にしてある。本書は支那史蹟の厖大な寫眞帳で、眺めてゐるだけでも飽くことを知らぬ。先頃十二輯を完成し、近くまた續輯四册を出版するといふことである。（Y・H生）

昭和十七年四月十五日印刷納本
昭和十七年五月一日發行

五月號（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　大橋松雄
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二三三番　電話九段（33）一一四一五　三三四四番
會員登錄番號一一六五〇八番

一册定價㊙三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社
廣告取扱　大阪市西區京町堀上通一丁目二五　一手取扱所　一新社　電話土佐堀九三九

NISSEN

化膿症
特に婦人科症に對する治療の的確と安全を期す……

◇醫界の定説

化膿菌に對する化學療法に二基ズルホンアミド劑が奏効適確であることは既に醫界の定説です。

◇治療の要諦

近時各種のズルホンアミド劑が簇出してゐる際其撰定に當つては化學的純度高きものを採ることが治療の要諦と申すべきです。

◇ポレオン「日染」

ポレオン「日染」は二基ズルホンアミド劑の純正品にして單に内服に依り左記諸疾患に對し短期間に奏効するを特徴とします。

適應症

化膿性婦人科疾患　扁桃腺炎
中耳炎　丹毒
惡性感冒　其他あらゆる化膿性疾患

包裝　二〇錠・一〇〇錠

ポレオン「日染」錠

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

NISSEN

砒素驅黴劑

"日染"の新發賣！

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。

時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

一號　二號　三號　四號　五號　六號
各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

胃腸疲労、栄養に

V・B₁（ビタミン）の不足は胃及び腸の活動低下を來し、各筋肉の無力狀態を起し食慾不振、便秘の原因となる。か樣な場合高單位のビタミンB₁劑「强力メタボリン錠」の服用は、根本的に胃腸組織を賦活して筋肉の緊張を調整し、その過勞を恢復すると共に、消化液の分泌を亢めて食慾を旺盛ならしめ、榮養素の吸收を促進し、以て疾病の治癒を容易ならしむ。

V・B₁含有量 一錠中〇・五ミリグラム

〔適應症〕胃腸疾患、食慾不振、胃腸無力症、病中及び恢復期患者並に妊・産・授乳時の榮養障害、疲勞の恢復等、

★包裝 一〇〇錠 三〇〇錠

强力メタボリン錠

製造發賣元 株式會社 武田長兵衛商店 大阪市道修町
關東代理店 株式會社 小西新兵衛商店 東京市本町

2(2)45

昭和十四年[illegible]月四日第三種郵便物認可 昭和十七年四月十五日印刷納本 昭和十七年五月一日發行（毎月一回一日發行）第三十六號

北支 ㊡ 定價 三十錢